

## 第4章 政策優先度、振興方向

前章までは、県民の生活全般についての満足感や生活上のニーズについてみた。ニーズの裏には不満感や未充足感があり、その解決を自助及び公的機関に求めている。このうち自助で解決が困難な分野に関しては、公的機関の政策に求められるところである。そのため、本調査では、自治体等公的主体がどの分野に力を入れるべきか、どのような施策を行うべきかといったことなどを尋ねており、今後の施策展開の基礎資料とすべき県民の意向把握を試みている。

本章では、13の生活領域や産業振興施策及び米軍基地、リゾートといった特定課題の施策選好度や方向性をみる。

### 1 生活領域別の政策優先度

政策として力を入れてほしい生活領域を3番目まであげてもらった。総合すると、「消費生活」が最も多く65.3%、一番目の要望としては48%がこれをあげている。第2位は「社会福祉」で44.0%（総合）、第3位は「健康」で36.5%（総合）となっており、基礎的ニーズに関する領域が上位にある。「消費生活」、「健康」、「社会福祉」については高齢層、低所得層や北部、先島地域で、「快適」、「余暇」、「利便」、「労働雇用」については若年齢層、「住宅」については那覇地域でそれぞれ高い優先度を示している。

#### (1) 順位別にみた政策優先度

県や国、市町村の政策として優先すべきものは何であるのかについて、13の生活領域から順位をつけて3つ選んでもらった。

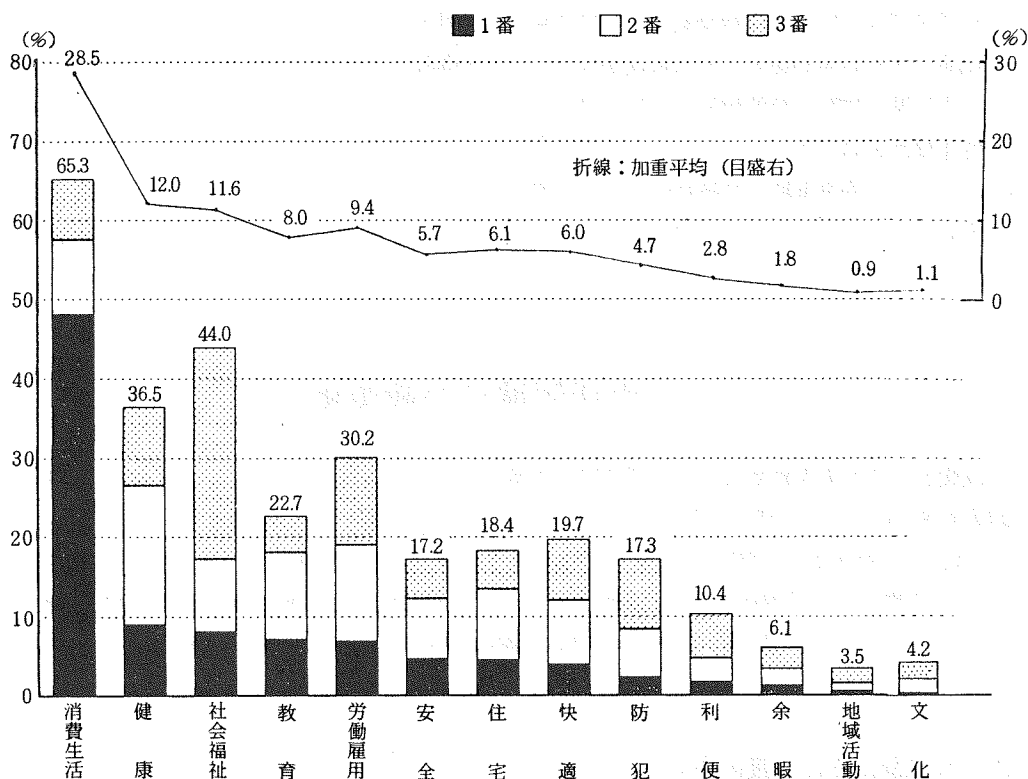
1番目に力を入れるべきだとしている政策をみると、収入増や物価安定等に関する領域である「消費生活」が全体の48.0%と極めて高くなっている。次に高い領域は医療の確保や病気の予防等の「健康」で9.1%、つづいて老人や子供、からだの不自由な人が安心してくらせる「社会福祉」8.1%となっている。

2番目に力を入れるべき政策とされた領域は「健康」17.5%、雇用の安定ややりがいのある仕事の確保等の「労働雇用」12.2%、学校教育の向上を内容とした「教育」11.1%とつづいている。

3番目に選択された領域としては「社会福祉」26.8%、「労働雇用」11.1%、「健康」9.9%などが高くなっている。

選択領域を総合的に評価するため、選択された順位のニーズ度合を考慮し、高順にウェイトをおき1～3位の割合の加重平均を求めた。これでもた政策優先領域は「消費生活」が最も高く28.5%を示し他の領域の2倍以上の選好度があるといえよう。「健康」12.0%、「社会福祉」11.6%がつづき、生活安定や健康といった基礎的ニーズに関する領域が高い優先度を示している。逆に、文化施設の増加や文化財を守る政策領域である「文化」、地域の連帯を図る政策領域である「地域活動」、及びレクリエーション活動や休暇をふやす政策領域の「余暇」といった生活の質的向上のニーズに関する領域は優先度が低くなっている。

図4-1-1 生活領域別の政策優先度（県計）



注) 加重平均は1番目に3, 2番目に2, 3番目に1のウェイトを乗じて平均したものである。(以下同様。)

消費生活 …… (収入をふやし、物価を安定させ、租税の公平、商品苦情サービスを充実するなどの政策)

教育 …… (学校教育をよくしていく政策)

住宅 …… (住宅を確保し、その環境をよくする政策)

余暇 …… (レクリエーション活動の休暇をふやす政策)

安全 …… (消防、防災、事故防止など、安全な暮らしをめざす政策)

文化 …… (文化施設をふやし、文化財などを守る政策)

健康 …… (医療の確保や病気の予防などの政策)

快適 …… (衛生的で、公害がなく、かつ自然及び緑の多い環境を作る政策)

地域活動 …… (地域の人々のつながりを強めるための政策)

労働・雇用 …… (安定した、やりがいのある仕事をつくる政策)

利便 …… (交通・通信の便をよくし、日常の暮らしを便利にする政策)

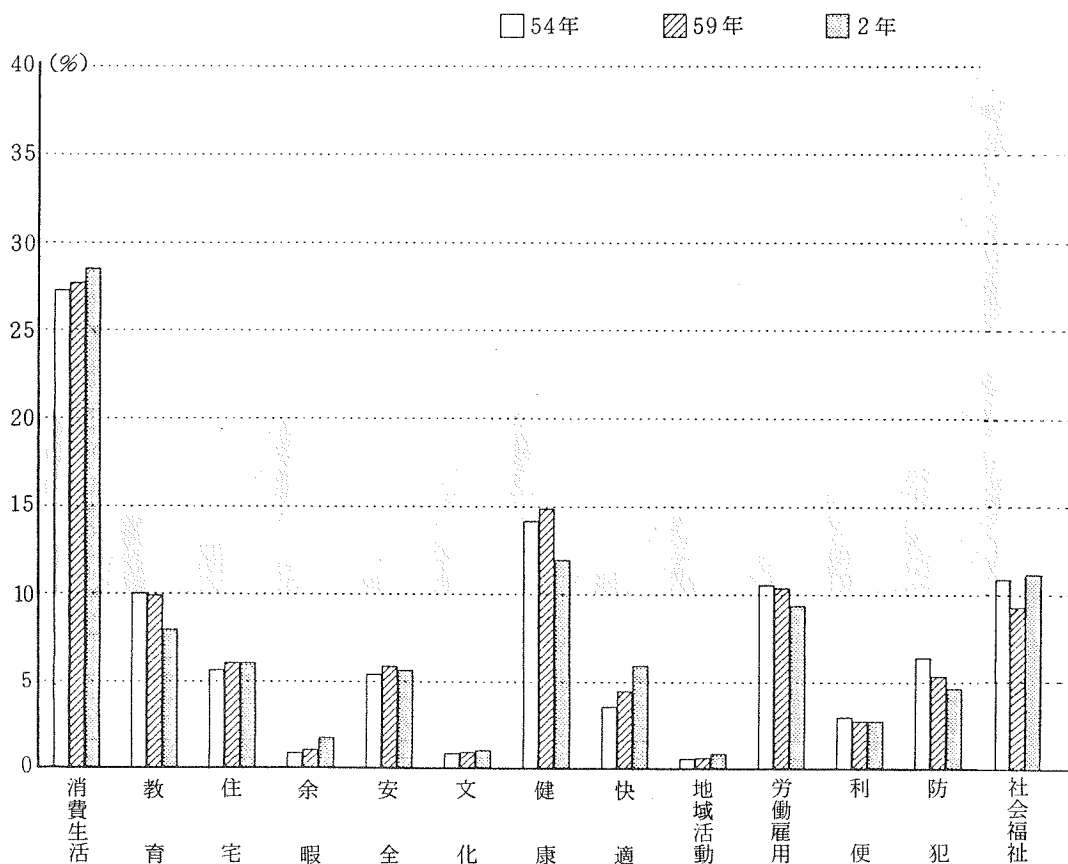
防犯 …… (防犯や暴力をへらす政策)

社会福祉 …… (老人や子供、からだの不自由な人などが安心してらせる政策)

## (2) 政策優先度の推移

今回の調査を過去2回の調査と加重平均により比較してみる。「消費生活」、「健康」、「社会福祉」、「労働雇用」といった領域は昭和54年の調査以来高い選好度を示している。今回の調査で過去2回調査よりも高い値を示した領域は「消費生活」、「余暇」、「文化」、「快適」、「地域活動」、「社会福祉」となっている。今回調査は、消費税の導入や高齢化の進展といった状況で実施されたことから、「消費生活」、「社会福祉」領域への関心が高くなったものと思われる。また、この2領域以外は優先度の低い領域であるが、生活の質的向上を図る領域であり、除々にではあるが質的向上のニーズが、高まりつつあることを示している。一方、「教育」、「健康」、「労働雇用」、「防犯」の各領域は、過去2回の調査に比べ低い値となっている。これら領域に対する政策要求度合が従前と比べ若干低くなったものといえよう。

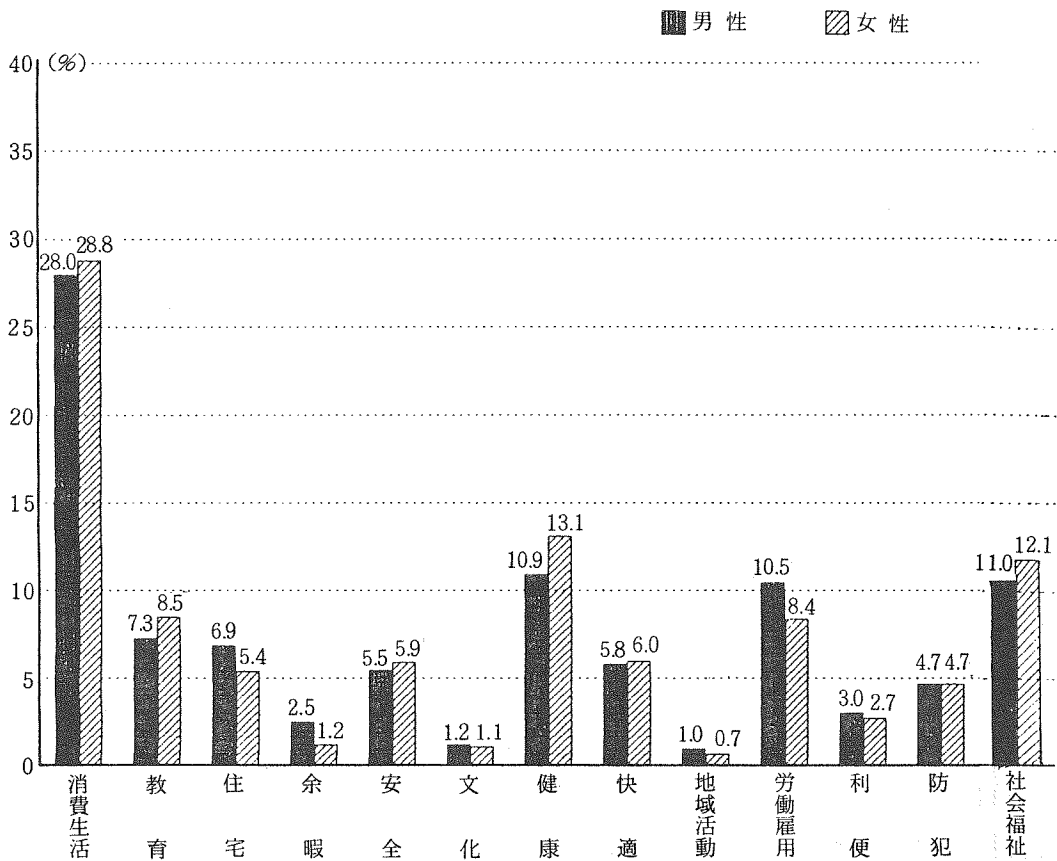
図4-1-2 加重平均でみた政策優先度の推移



### (3) 性別でみた政策優先度

男性より女性で優先度合いが高い領域は、「消費生活」、「教育」、「安全」、「健康」、「快適」、「社会福祉」となっている。特に、「健康」の領域では差が大きく、2.2%ポイント女性の割合が高くなっている。逆に、男性で優先度が高い領域は、「住宅」、「余暇」、「文化」、「地域活動」、「労働雇用」、「利便」となっている。「労働雇用」については、男性の要求が特に強く、女性に比べ2.1%ポイント高い値を示している。

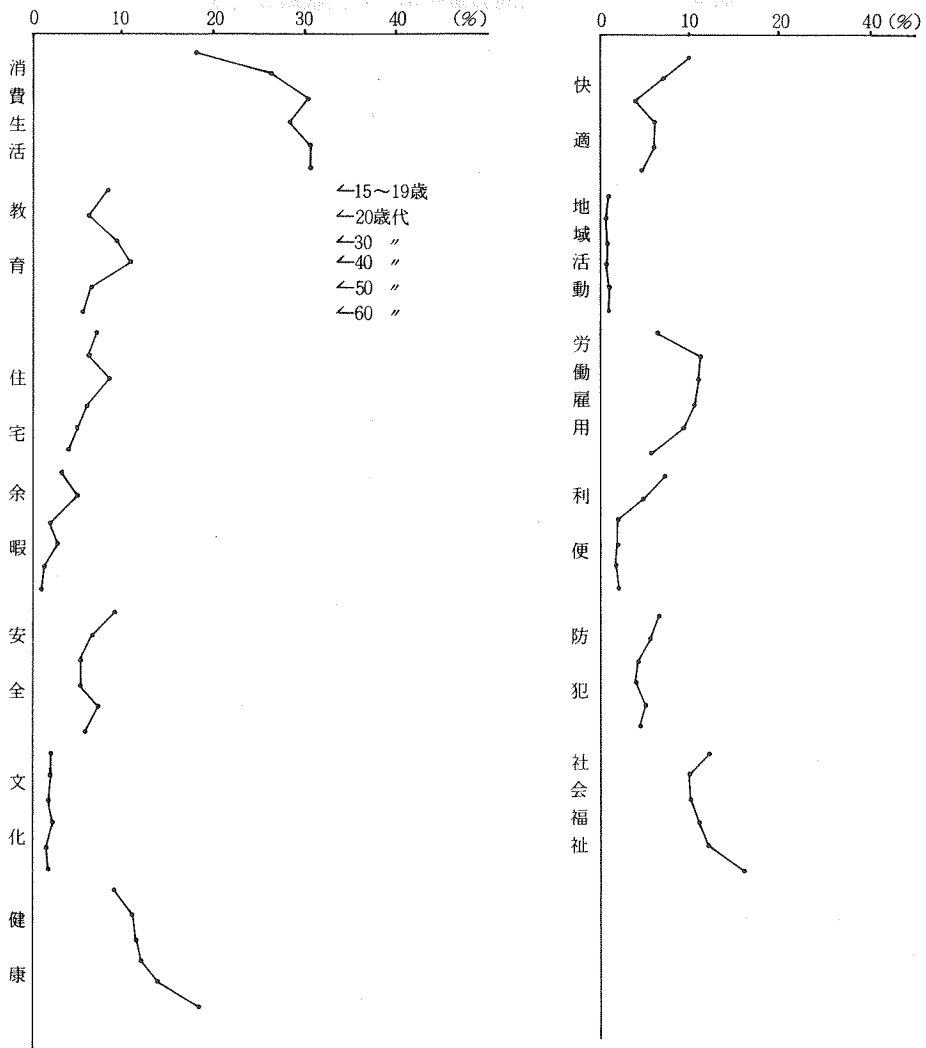
図4-1-3 性別加重平均でみた政策優先度



#### (4) 年齢階層別でみた政策優先度

調査対象年齢の15～69歳を6つの階層に分けて階層間の傾向をみる。「消費生活」や「健康」については年齢層が高くなるにつれて優先度合が高まり、15～19歳と60歳代で約10%のひらきがある。また、「社会福祉」についても、15～19歳で若干高くなっているほかは、同様な傾向がうかがえる。逆に、若干層ほど高く優先度を示している領域は「快適」や「利便」となっており、各年齢層の生活状態からくる政策に対するニーズの違いがうかがわれる。学校に通う子どもがいると思われる30歳代、40歳代では他の階層に比べて「教育」に対する優先度が高くなっている。労働の中心層である20歳代から50歳代では「労働雇用」に対して高い値を示している。また、15～19歳と20歳代で「余暇」に対する優先度は高いが、「文化」、「地域活動」といった領域では、階層間の差はほとんどみうけられない。

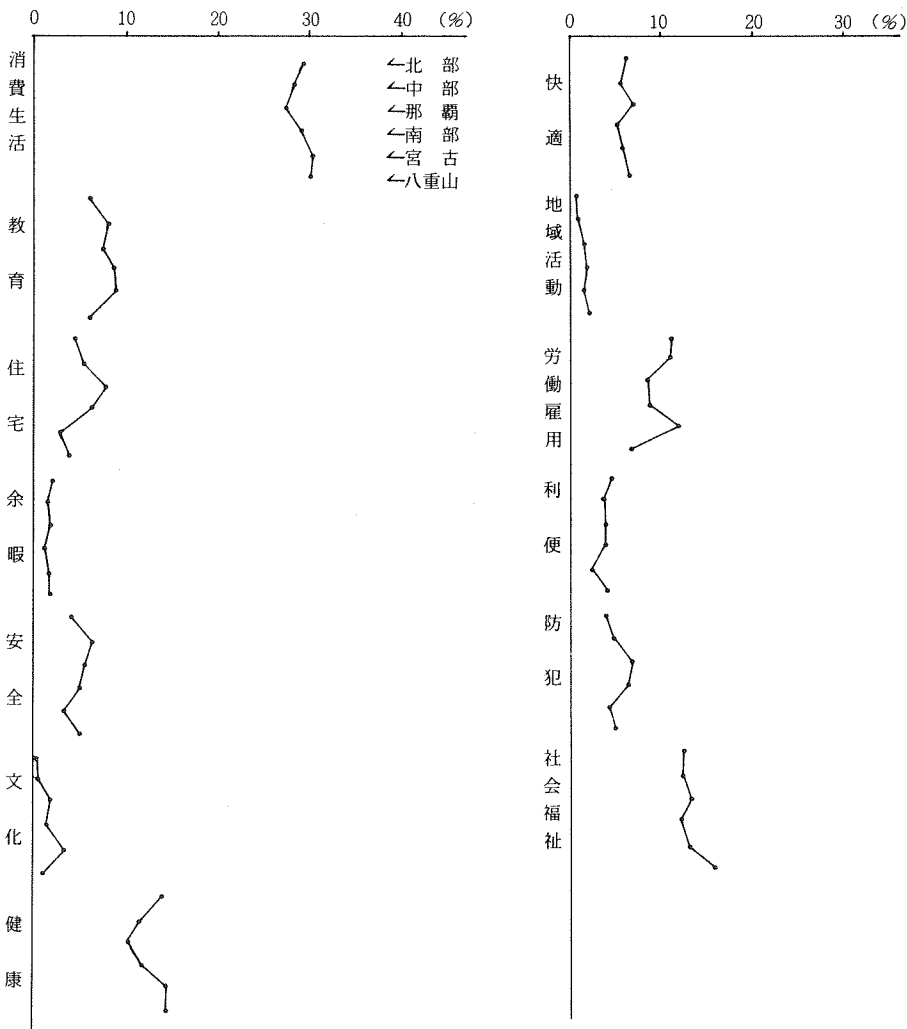
図4-1-4 年齢階層別加重平均でみた政策優先度



(5) 地域別にみた政策優先度

ここでは、北部から八重山まで6地域別に政策優先度をみる。「消費生活」については地域間に大きな差はないが、那覇が他の地域よりわずかに低く、宮古、八重山が高くなっている。「教育」については北部、八重山で低く、南部、宮古で若干高くなっている。「住宅」については、他の領域に比べ地域間の差が大きく、那覇での優先度が最も高くなっている。2番目に南部がつづき、先島地域で低くなっている。「安全」については、中部で高く、宮古で低い値を示している。「文化」については、全体的に低い値を示しているが、宮古で若干高くなっている。「健康」については、那覇が1番低く、北部、宮古、八重山で高くなっている。「快適」と「防犯」については、那覇が高い値となっている。「労働雇用」については、北部、中部、宮古が高く、八重山が最も低くなっている。「社会福祉」では八重山が比較的高いが、「余暇」「地域活動」では地域間の差がほとんどみうけられない。

図 4 - 1 - 5 地域別加重平均でみた政策優先度



### (6) 所得階層別にみた政策優先度

調査世帯全員の年間所得を7階層に分けて、政策優先度をみた。所得が低いほど優先度が高い傾向を示している領域は「消費生活」、「健康」、「社会福祉」で、生活の基礎的ニーズに基づいた領域となっている。逆に、所得が高いほど優先度が高くなる傾向を示している領域は「教育」、「余暇」となっている。また、700万円以上層では、「快適」や「利便」を選好する割合が比較的高くなっている。「文化」や「地域活動」については、階層間での差はほとんどない。

図4-1-6 所得階層別加重平均でみた政策優先度

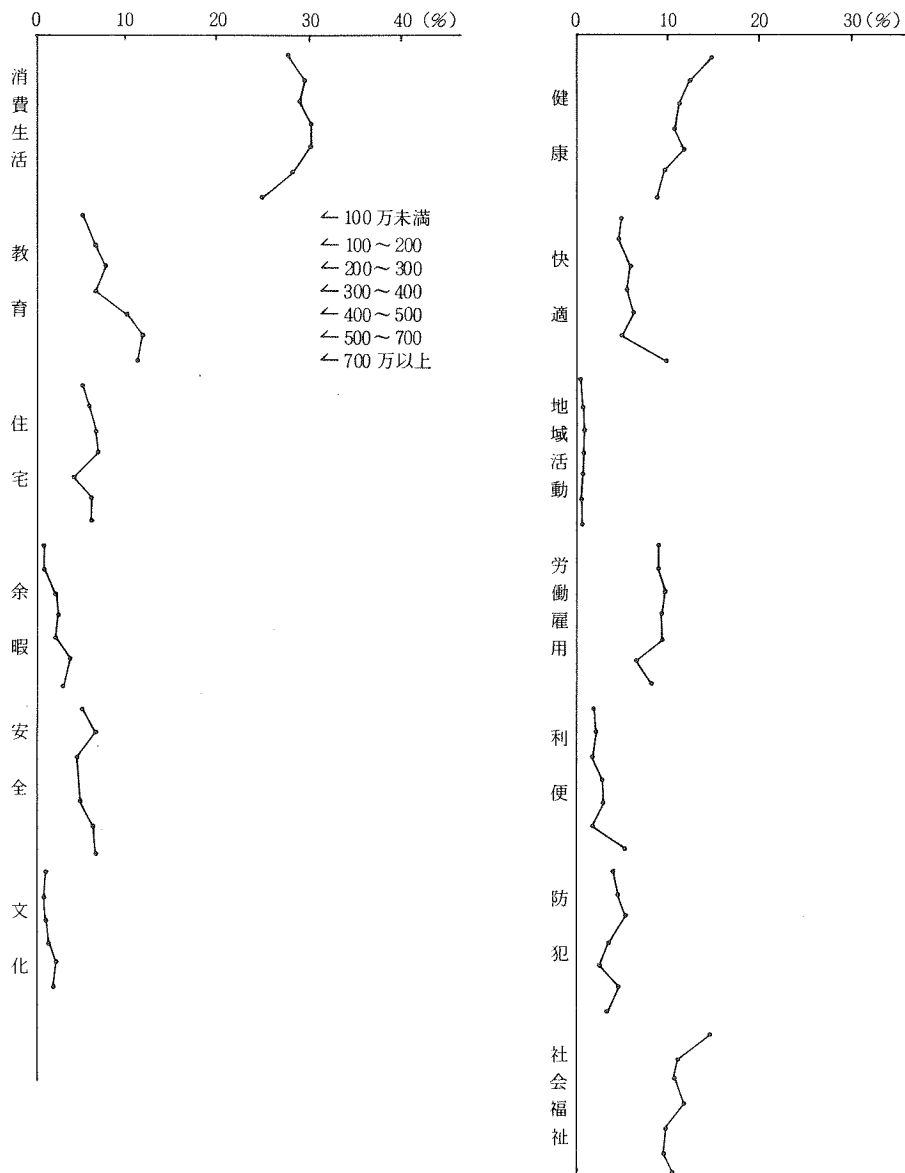


表 4 - 1 - 1 県計時系列及び属性別にみた政策優先度の集計表

(単位：％)

問 3	県 計				加重平均の推移			性別加重平均		年齢階層別加重平均					
	1番	2番	3番	計	昭54	昭59	平2	男	女	15～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69
1. 消費生活	48.0	9.6	7.7	65.3	27.3	27.7	28.5	28.0	28.8	18.3	26.3	30.2	28.4	30.4	30.5
2. 教 育	7.1	11.1	4.5	22.7	10.0	9.9	8.0	7.3	8.5	8.5	6.3	9.4	10.6	6.3	5.5
3. 住 宅	4.6	8.9	4.9	18.4	5.7	6.1	6.1	6.9	5.4	6.8	6.0	8.2	6.2	5.2	3.8
4. 余 暇	1.2	2.2	2.7	6.1	0.9	1.1	1.8	2.5	1.2	3.3	4.6	1.6	2.1	0.7	0.5
5. 安 全	4.7	7.6	4.9	17.2	5.5	5.9	5.7	5.5	5.9	8.7	5.8	4.8	4.7	6.6	5.5
6. 文 化	0.4	1.8	1.9	4.1	0.9	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.4	0.9	1.0
7. 健 康	9.1	17.5	9.9	36.5	14.2	14.9	12.0	10.9	13.1	8.3	10.2	10.7	10.9	13.0	17.2
8. 快 適	4.0	8.1	7.6	19.7	3.6	4.5	6.0	5.8	6.0	10.1	6.8	4.5	6.2	5.9	4.7
9. 地域活動	0.5	1.1	1.9	3.5	0.6	0.7	0.9	1.0	0.7	1.3	0.9	0.7	0.9	0.9	0.9
10. 労働・雇用	6.9	12.2	11.1	30.2	10.6	10.4	9.4	10.5	8.4	6.5	11.0	10.7	10.4	9.4	5.9
11. 利 便	1.7	3.1	5.6	10.4	3.0	2.8	2.8	3.0	2.7	7.2	4.9	2.0	2.3	2.1	2.2
12. 防 犯	2.3	6.2	8.8	17.3	6.5	5.4	4.7	4.7	4.7	6.5	5.3	4.5	3.8	4.8	4.5
13. 社会福祉	8.1	9.1	26.8	44.0	11.1	9.1	11.6	11.0	12.1	12.0	9.9	9.9	10.6	12.2	15.8
14. 無 答	1.5	1.8	1.8	5.1	0.2	0.6	1.6	1.7	1.5	1.2	0.7	1.7	1.5	1.5	2.1



表4-1-1 県計時系列及び属性別にみた政策優先度の集計表(続き)

(単位:%)

問 3	地域別加重平均						所得階層別加重平均						
	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~700万円未満	700万円以上
1. 消費生活	29.4	28.6	26.7	29.5	30.4	30.0	27.8	29.5	28.9	29.9	29.9	28.1	22.7
2. 教 育	6.1	8.4	7.6	8.9	8.9	6.6	5.1	6.7	7.8	6.7	10.5	12.1	11.3
3. 住 宅	4.8	5.5	8.1	6.4	2.8	3.7	5.7	6.1	6.5	6.9	4.1	6.3	5.9
4. 余 暇	2.1	1.8	1.9	1.5	1.7	1.9	1.1	0.9	1.9	2.4	2.0	3.8	2.9
5. 安 全	4.1	6.6	5.7	5.0	3.7	5.2	5.2	6.6	4.8	5.6	4.9	6.3	6.6
6. 文 化	0.7	0.6	1.7	1.4	3.3	1.0	1.0	0.7	1.1	1.1	2.0	2.0	1.3
7. 健 康	14.3	11.8	10.6	12.1	14.6	14.7	15.0	12.7	11.6	11.2	12.1	10.0	8.9
8. 快 適	6.2	5.5	7.1	5.1	5.6	6.0	5.4	5.1	6.1	6.0	6.6	5.3	9.9
9. 地域活動	0.8	0.9	0.8	1.2	1.1	1.4	0.8	0.9	1.0	1.0	0.7	0.8	1.1
10. 労働・雇用	10.7	10.5	7.7	8.6	11.5	6.2	9.2	9.6	10.1	9.6	9.8	7.0	8.7
11. 利 便	3.5	2.6	2.8	3.3	1.4	3.3	2.3	2.5	2.3	2.9	3.4	2.1	5.5
12. 防 犯	2.9	4.3	6.0	5.0	3.1	3.5	4.7	5.1	5.7	4.2	2.9	5.1	3.7
13. 社会福祉	11.4	11.3	12.2	10.6	12.2	14.2	15.1	11.4	10.9	11.7	10.1	10.0	10.8
14. 無 答	3.2	1.6	1.3	1.5	0.0	2.3	1.5	2.2	1.2	1.0	1.1	1.3	0.7

## 2 産業の振興度

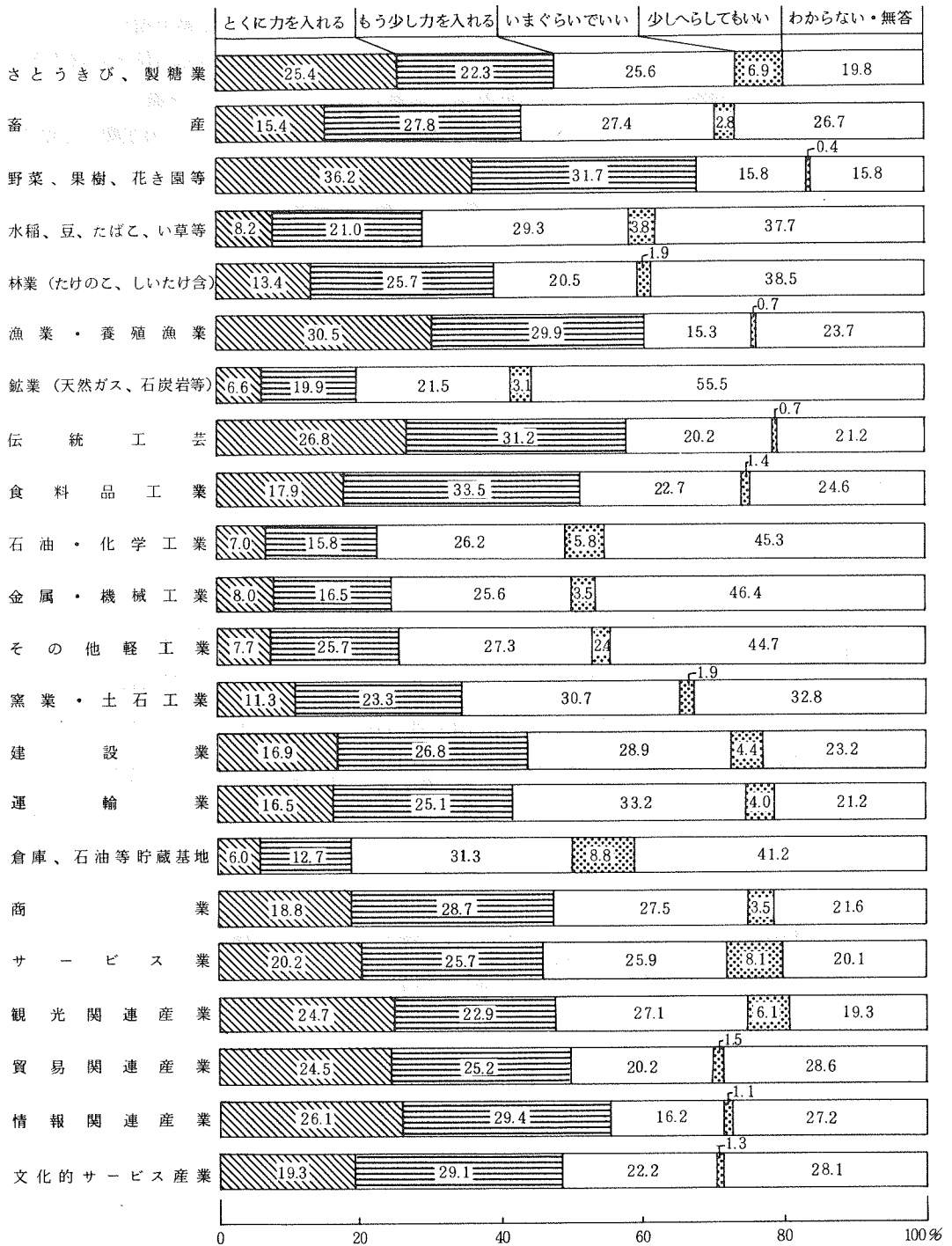
積極的に振興すべきだ（「とくに力を入れる」+「もう少し力を入れる」）という割合をみると、「野菜、果樹、花き園芸」が68.0%と最も高く、「漁業、養殖」が60.4%、「伝統工芸」58.0%、「情報関連」（55.5%）とつづいている。本島地域では「野菜、果樹、花き園芸」、先島地域では「漁業、養殖漁業」が1位となっている。時系列で見ると全体的に産業の振興度は低下傾向にある。

### (1) 県計でみた産業の振興度

県を振興するにあたって、それぞれの産業をどの程度振興すべきかの強弱を4段階で尋ねた。「とくに力を入れる」べきだとする強い意見では、「野菜、果樹、花き園芸」が36.2%と最も高く、次に「漁業・養殖漁業」30.5%となっている。以下、「伝統工芸」26.8%、「情報関連産業」26.1%とつづいている。積極的な振興を図るべきだと考えられる「とくに力を入れる」と「もう少し力を入れる」と回答した割合を加えた値で振興度をみると、「野菜、果樹、花き園芸」が67.9%であり、10人に7人の割合で重点的振興を強張していることになる。また、「漁業、養殖漁業」についても60.4%と高い振興度を示している。そのほか、「伝統工芸」58.0%、「情報関連産業」55.5%、「食料品工業」51.4%と、前述の2産業を加えて5産業が50%を越える値となっている。

一方、低い振興度となっている産業は「倉庫、石油等貯蔵基地」18.7%、「鉱業」19.9%などとなっているがこれらの産業は振興のイメージがつかみにくいこともあると思われ、「わからない」と答える人が半数近くを占めている。また、「倉庫、石油等貯蔵基地」、「サービス業」、「さとうきび、製糖業」、「観光関連産業」などの産業は「少しへらしてもいい」という見方が相対的に高くなっている。

図4-2-1 産業の振興度（県計）

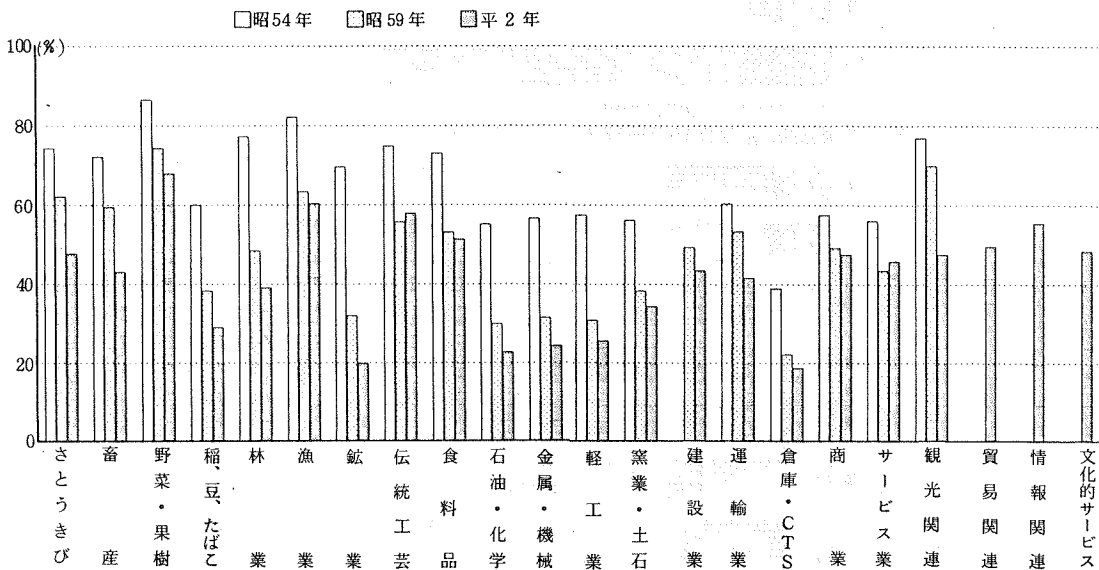


## (2) 産業の振興度の推移

各産業の振興度の推移を「特に力を入れる」+「もう少し力を入れる」と回答した割合でみる。全体的にみると昭和54年以降振興度水準は低下する傾向にある。これは、産業を積極的に振興するニーズの低下と、逆にある程度の充足感の高まりをうかがわせている。昭和54年と平成2年の値を比較すると、振興度の低下幅が大きな産業は「鉱業」(49.8ポイント)、「林業」(38.1ポイント)、「石油・化学工業」(32.6ポイント)、「金属・機械工業」(32.2ポイント)、「軽工業」(32.1ポイント)となっている。

「伝統工芸」と「サービス業」は昭和59年調査に比べ若干振興度が高まっており、全体の傾向と異なった動きを示している。

図4-2-2 産業振興度の推移

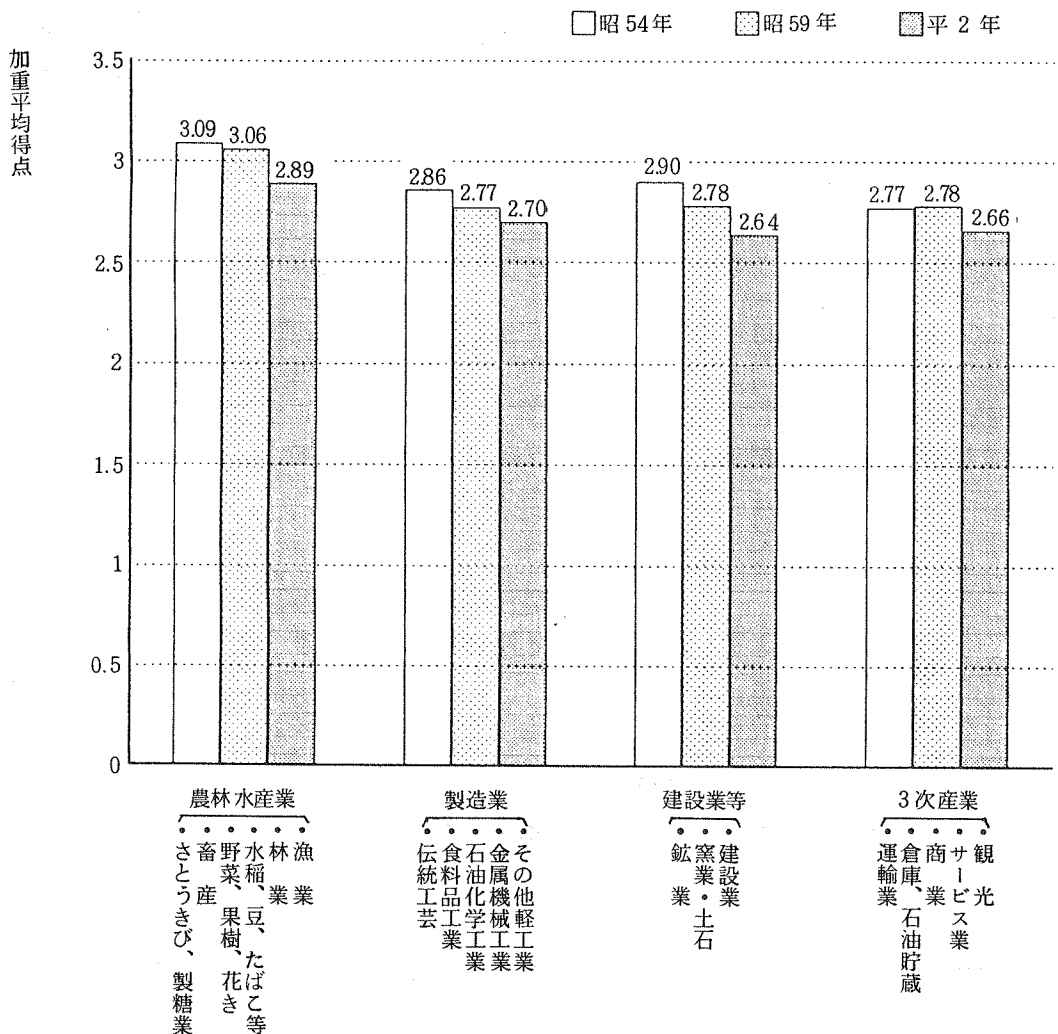


- 注：1. 54年調査では、漁業と養殖漁業が独立項目のため、その平均値を求めた。また、建設業は59年以降窯業・土石工業から分離し、独立項目となっている。  
 2. 貿易関連産業、情報関連産業、文化的サービス産業は今回調査で追加した。

次に、「特に力を入れる」4点、「もう少し力を入れる」3点、「いまぐらいいい」2点、「少しへらしてもいい」1点とそれぞれの回答に配点し加重平均得点を求め、時系列比較のできる19の産業を4分類し比較してみる。平均得点を求めるにあたっては、「わからない」と回答する割合が大きい産業が一部あるため、無回答とともに母数から除いた。

各産業の加重平均得点を分類ごとに単純平均した得点でみると、3回の調査結果とも『農林水産業』の得点が最も高くなっているものの、4分野とも初回調査以来低下傾向にある。「農林水産業」と「建設業等」で低下度合が大きくなっているため、相対的に「製造業」、「3次産業」の重点度が高まっている。

図4-2-3 重点産業の推移



### (3) 地域別にみた産業振興度

前節の加重平均得点を用いて地域別の産業振興度をみる。本島地域では「野菜、果樹、花き」が1位、「漁業」が2位となっているが、先島地域ではその順位が入れかわって「漁業」が1位となっている。また、その得点水準も高くなっている。得点の高い5位内の産業でみると、北部では「さとうきび、製糖業」、南部で「食料品工業」、宮古で「文化関連」が他の地域よりも高い値を示している。

表4-2-1 加重平均点でみた地域別産業振興度

	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	県計
1位	野菜・果樹 ・花き 3.23	野菜・果樹 ・花き 3.24	野菜・果樹 ・花き 3.22	野菜・果樹 ・花き 3.22	漁業 3.33	漁業 3.42	野菜・果樹 ・花き 3.23
2位	漁業 3.11	漁業 3.18	漁業	漁業 3.21	野菜・果樹 ・花き 3.25	野菜・果樹 ・花き 3.32	漁業 3.18
3位	情報関連 3.07	情報関連 3.13	伝統工芸 3.15	伝統工芸 3.13	情報関連 3.10	貿易関連 3.25	情報関連 3.11
4位	さとうきび 、製糖業 2.95	伝統工芸 3.07	貿易関連	情報関連 3.05	貿易関連 3.08	情報関連 3.13	伝統工芸 3.07
5位	貿易関連 2.88	貿易関連 3.01	情報関連 3.12	食料品工業 2.97	文化関連 3.05	伝統工芸 2.97	貿易関連 3.02

表4-2-2 県計、時系列及び属性別にみた産業振興度の集計表

(単位：%、点)

問 13	とくに力を入れる	もう少し力を入れる	いまぐらいでいい	少しへらし てもいい	わからない	無回答	特に力を入れる+もう少し力を入れる		
							昭54	昭59	平 2
1 さとうきび・製糖業	25.4	22.3	25.6	6.9	18.7	1.1	74.4	62.2	47.7
2 畜 産	15.4	27.8	27.4	2.8	24.9	1.8	72.2	59.6	43.2
3 野菜・果樹・ 花き園芸	36.2	31.7	15.8	0.4	14.0	1.8	86.7	74.3	68.0
4 水稲・豆・たばこ等	8.2	21.0	29.3	3.8	34.7	3.0	60.0	38.4	29.2
5 林 業	13.4	25.7	20.5	1.9	35.7	2.8	77.3	48.5	39.2
6 漁 業	30.5	29.9	15.3	0.7	21.5	2.2	82.2	63.4	60.4
7 鉱 業	6.6	13.3	21.5	3.1	52.0	3.5	69.7	32.1	19.9
8 伝 統 工 芸	26.8	31.2	20.2	0.7	19.1	2.1	74.9	55.8	58.0
9 食 料 品 工 業	17.9	33.5	22.7	1.4	22.2	2.4	73.2	53.1	51.4
10 石油・化学工業	7.0	15.8	26.2	5.8	42.7	2.6	55.3	30.0	22.7
11 金属・機械工業	8.0	16.5	25.6	3.5	43.4	3.0	56.7	31.6	24.5
12 その他軽工業	7.7	18.0	27.3	2.4	42.2	2.5	57.7	30.8	25.6
13 窯業・土石工業	11.3	23.3	30.7	1.9	28.3	4.5	56.2	38.3	34.5
14 建 設 業	16.9	26.8	28.9	4.4	19.5	3.7	—	49.4	43.6
15 運 輸 業	16.5	25.1	33.2	4.0	17.9	3.3	60.5	53.4	41.6
16 倉庫・石油貯蔵	6.0	12.7	31.3	8.8	37.3	3.9	39.0	22.1	18.7
17 商 業	18.8	28.7	27.5	3.5	18.4	3.2	57.7	49.3	47.5
18 サービス業	20.2	25.7	25.9	8.1	17.3	2.8	56.1	43.5	45.9
19 観光関連産業	24.7	22.9	27.1	6.1	16.9	2.4	77.0	70.0	47.6
20 貿易関連産業	24.5	25.2	20.2	1.5	25.9	2.7	—	—	49.7
21 情報関連産業	26.1	29.4	16.2	1.1	24.6	2.6	—	—	55.6
22 文化的サービス産業	19.3	29.1	22.2	1.3	25.7	2.4	—	—	48.4

表4-2-2 県計、時系列及び属性別にみた産業の振興度の集計表（つづき）

（単位：％、点）

問 13	平均得点			地域別平均得点					
	昭54	昭59	平2	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
1 さとうきび・製糖業	3.15	3.10	2.83	2.95	2.79	2.72	2.94	3.04	2.94
2 畜産	3.01	3.03	2.76	2.73	2.79	2.71	2.73	2.96	2.85
3 野菜・果樹・ 花き園芸	3.32	3.32	3.23	3.23	3.24	3.22	3.22	3.25	3.32
4 水稲・豆・たばこ等	2.76	2.69	2.54	2.57	2.58	2.48	2.46	2.60	2.75
5 林業	3.06	2.99	2.82	2.85	2.84	2.77	2.83	2.85	2.90
6 漁業	3.24	3.24	3.18	3.11	3.18	3.15	3.21	3.33	3.42
7 鉱業	3.03	2.84	2.53	2.43	2.54	2.46	2.63	2.60	2.73
8 伝統工芸	3.11	3.01	3.07	2.78	3.07	3.15	3.13	3.05	2.97
9 食料品工業	3.01	2.93	2.90	2.75	2.93	2.87	2.97	2.93	2.93
10 石油・化学工業	2.70	2.58	2.44	2.42	2.43	2.42	2.42	2.70	2.46
11 金属・機械工業	2.72	2.66	2.54	2.58	2.59	2.45	2.53	2.56	2.60
12 その他軽工業	2.74	2.67	2.56	2.52	2.57	2.53	2.57	2.65	2.64
13 窯業・土石工業	2.76	2.70	2.65	2.57	2.69	2.68	2.57	2.58	2.76
14 建設業	—	2.81	2.73	2.62	2.79	2.73	2.68	2.77	2.56
15 運輸業	2.84	2.89	2.69	2.60	2.68	2.75	2.68	2.61	2.65
16 倉庫・石油貯蔵	2.31	2.26	2.27	2.29	2.25	2.28	2.22	2.46	2.50
17 商業	2.74	2.81	2.80	2.69	2.81	2.88	2.68	2.91	2.80
18 サービス業	2.69	2.65	2.73	2.53	2.69	2.83	2.68	2.93	2.77
19 観光関連産業	3.25	3.27	2.82	2.77	2.76	2.90	2.79	3.04	2.82
20 貿易関連産業	—	—	3.02	2.88	3.01	3.12	2.86	3.08	3.25
21 情報関連産業	—	—	3.22	3.07	3.13	3.12	3.05	3.10	3.13
22 文化的サービス産業	—	—	2.92	2.85	2.94	2.98	2.80	3.05	2.89



### 3 重点振興方策

行政の重点方策としては「軍用地を転用して都市開発をする」(複数回答26.9%)が1位で、「太陽熱、風力などの代替エネルギー開発」(19.5%)2位、「観光保養基地」(19.1%)3位となっている。

「軍用地転用」は前回の2位から1位、「観光保養基地」は1位から3位になっている。また、地域別にみると、北部は「観光保養基地」(25.0%)、中部、那覇、南部は「軍用地転用」(30.3、29.3、24.2%)、宮古、八重山は圧倒的に「離島振興」(50.0、51.2%)が1位に選好されている。

#### (1) 重点振興方策の選好度

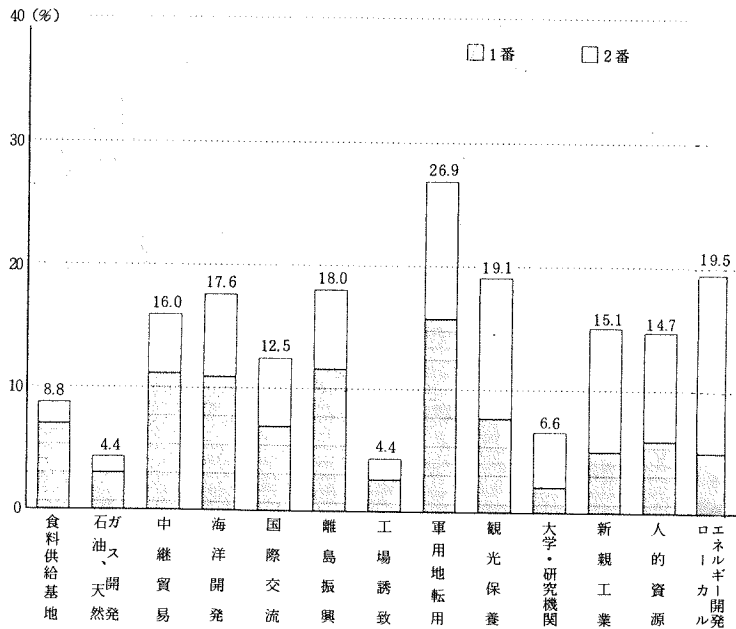
本県の振興にあたって、どのような施策事業に重点をおくべきなのか、14の項目から順位をつけて2つ選択してもらった。

今回調査の振興方策の選好度を県計でみると、1番目に選好された割合が高い方策は、「軍用地転用の促進」が15.7%で最も高くなっている。つづいて、「離島振興」11.6%「中継貿易」11.2%、「海洋開発」10.9%となっている。

2番目に選好された割合を加えた単純合計値では、「軍用地転用の促進」が26.9%とかなり高くなっている。

太陽熱、風力、波力などの「ローカルエネルギーの開発」が19.5%、「観光保養基地」としての整備が19.1%とつづいている。他方、「石油、天然ガスなどの開発」、「最先鋭工場の誘致」が4.4%と低い選好度となっている。

図4-3-1 重点方策選好度(県計)

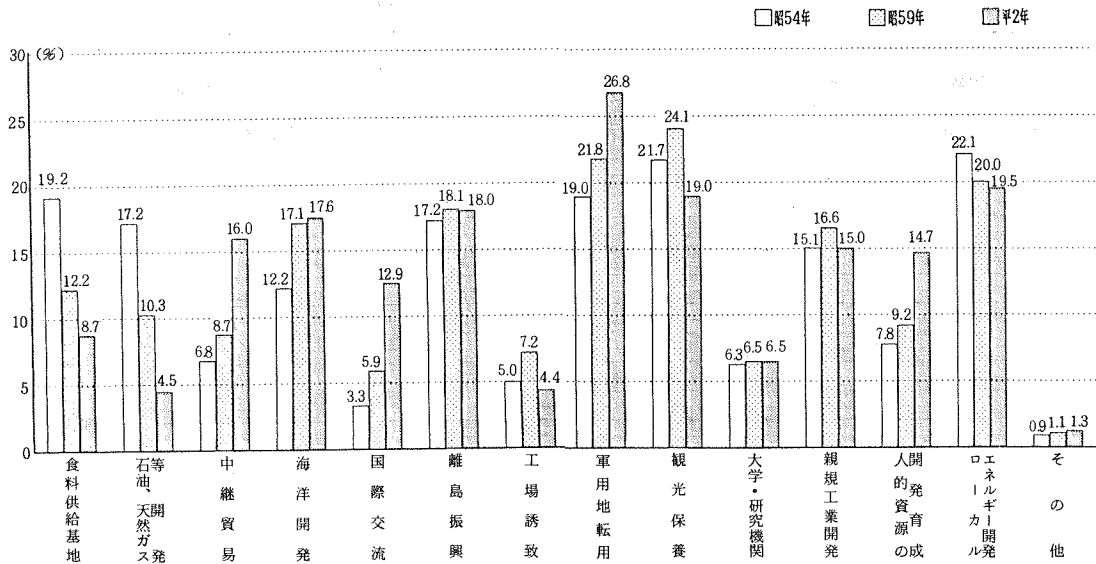


## (2) 重点振興方策の推移

時系列で重点振興方策をみるにあたっては、昭和54年調査が順位をつけずに2項目を選ぶ回答方式となっていることから、昭和59年、平成2年調査の1番目と2番目の割合を加えた単純合計値で比較する。また、今回調査では昭和54年、昭和59年調査の「海外移民」の項目を削除したことから、厳密には比較にあたって若干の考慮が必要となる。しかし、過去2回の調査では当項目の選好度が低いことから、大きな影響はないものとして比較を行う。

増加傾向を示している方策は、「中継貿易の基地」、「海洋開発」、「国際交流」、「軍用地転用の促進」、「人間資源の開発、育成」となっている。特に、「中継貿易の基地」と「国際交流」の伸びが大きく、前回より7.3、6.6ポイントの上昇を示している。逆に、減少傾向を示している方策は、「食料供給基地」、「石油、天然ガス等開発」、「ローカルエネルギー開発」となっている。特に、「石油、天然ガス等開発」は調査毎に、大幅な低下となっている。「離島振興」や県内資源を活用する「新規工業の開発」は比較的高位で、選好度の変化がほとんどない方策となっている。

図4-3-2 重点方策の推移



注：昭和54年調査では順位をつけずに2つを選択している。

### (3) 地域別にみた重点振興方策

ここでは、今回調査の単純合計による選好度合と1番目に2点、2番目に1点を配点した加重平均得点で前回調査との変化をみる。

北部地域では「観光保養基地」、「離島振興」、「軍用地転用の促進」が他の方策に比べ高い割合となっている。前回調査と比較すると、「中継貿易基地」が3.4ポイント、「国際交流」が3.1ポイント、「軍用地転用促進」が2.9ポイント、「人的資源の開発、育成」4.5ポイントとそれぞれ増加している。

中部地域では「軍用地転用促進」が30.3%と他の方策よりかなり高い割合を示し、以下「ローカルエネルギーの開発」、「海洋開発」がつづいている。また、前回調査よりも「軍用地転用の促進」が、3.8ポイント、「中継貿易基地」が4.2ポイントと相対的に大きな増加となっている。

那覇地域では「軍用地転用の促進」が29.3%と最も高く、つづいて「観光保養基地」22.0%、「ローカルエネルギーの開発」20.2%となっている。また、前回調査結果との比較では「中継貿易の基地」が5.3ポイント、「国際交流」が3.7ポイント高くなっているほか、「軍用地転用の促進」、「人的資源の開発、育成」などで高くなっている。

南部地域では「軍用地転用の促進」が24.2%と1番高く、つづいて「ローカルエネルギー開発」21.9%、「海洋開発」19.4%となっている。前回よりも高くなった方策のうち、増加幅の大きい方策は「国際交流」と「人的資源の開発、育成」でそれぞれ5.0ポイント、3.1ポイントの増加となっている。

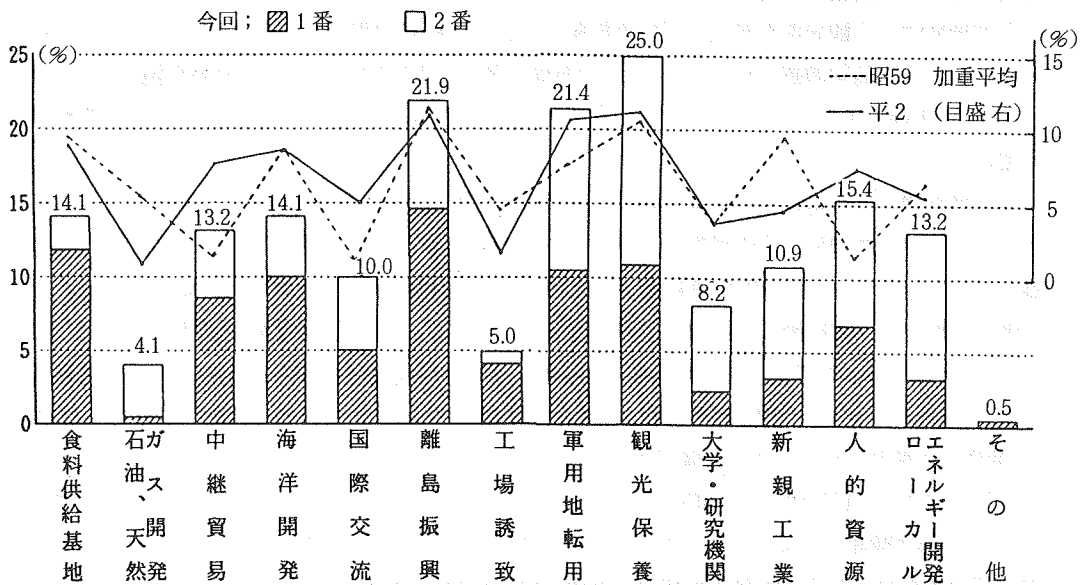
宮古地域では、「離島振興」による県内格差を縮小することが、50%と飛抜けて高くなっている。以下「観光保養基地」18.7%、「新規工業の開発」16.7%とつづいている。前回より伸びの大きい方策は「中継貿易の基地」(4.1ポイント)、「大学・研究機関の整備充実」(4.5ポイント)、「人的資源の開発育成」(5.3ポイント)となっている。

八重山地域では、「離島振興」(51.2%)と「中継貿易基地」(25.6%)がかなり高くなっている。「中継貿易の基地」は前回よりも14.4ポイント増加し、最近年における当方策への期待の高まりがうかがえる。

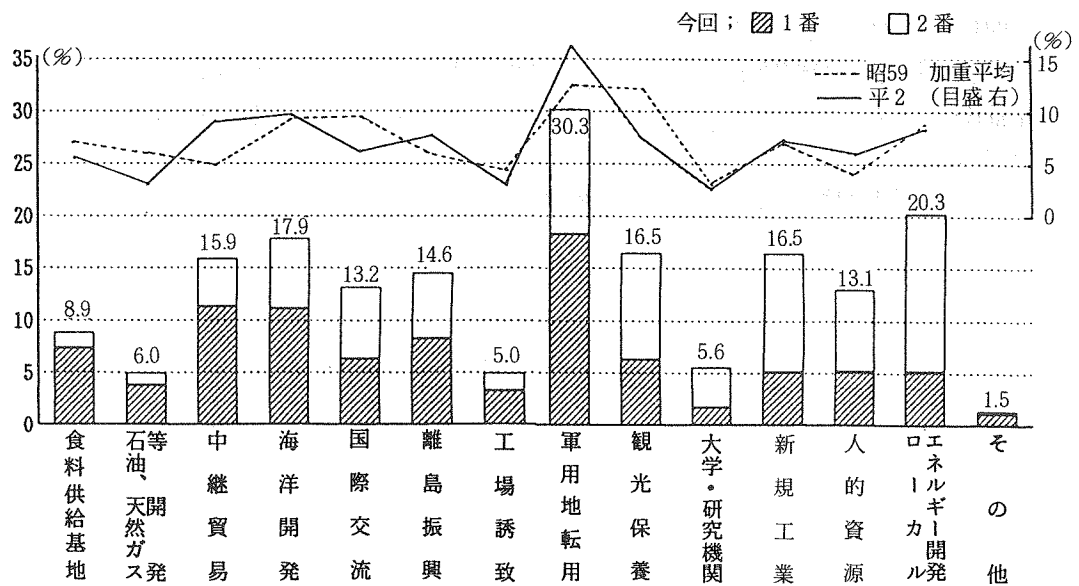
そのほか、「海洋開発」が5.6ポイントの増加を示している。

図4-3-3 地域別にみた重点施策

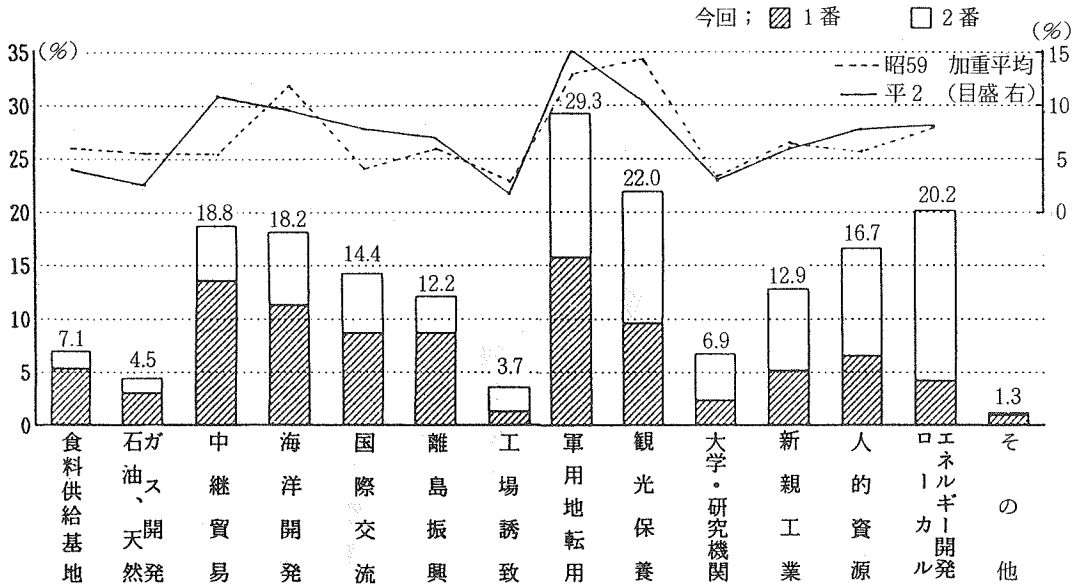
(北部)



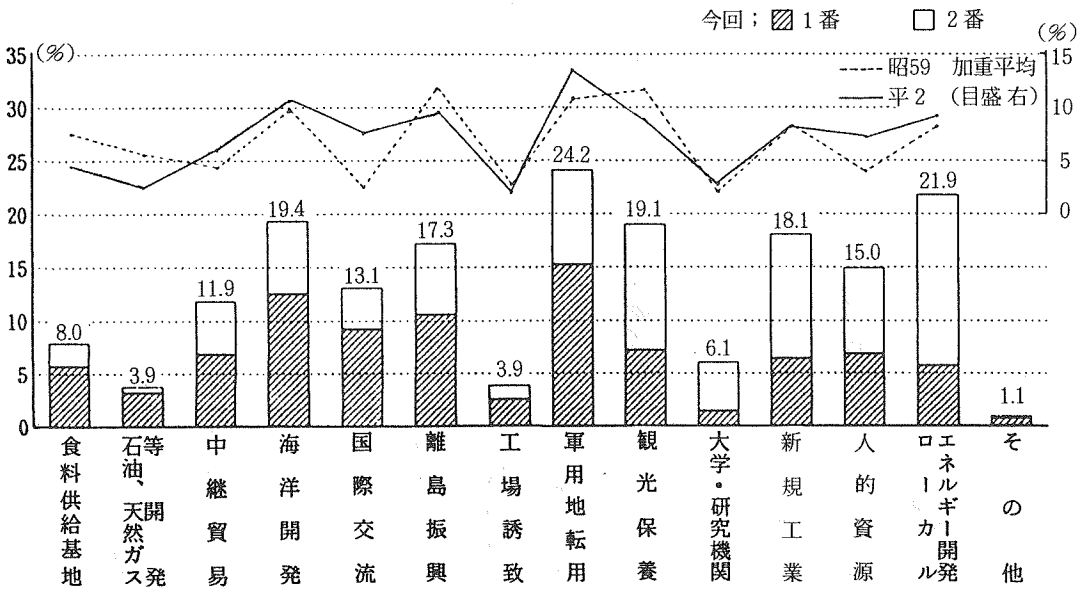
(中部)



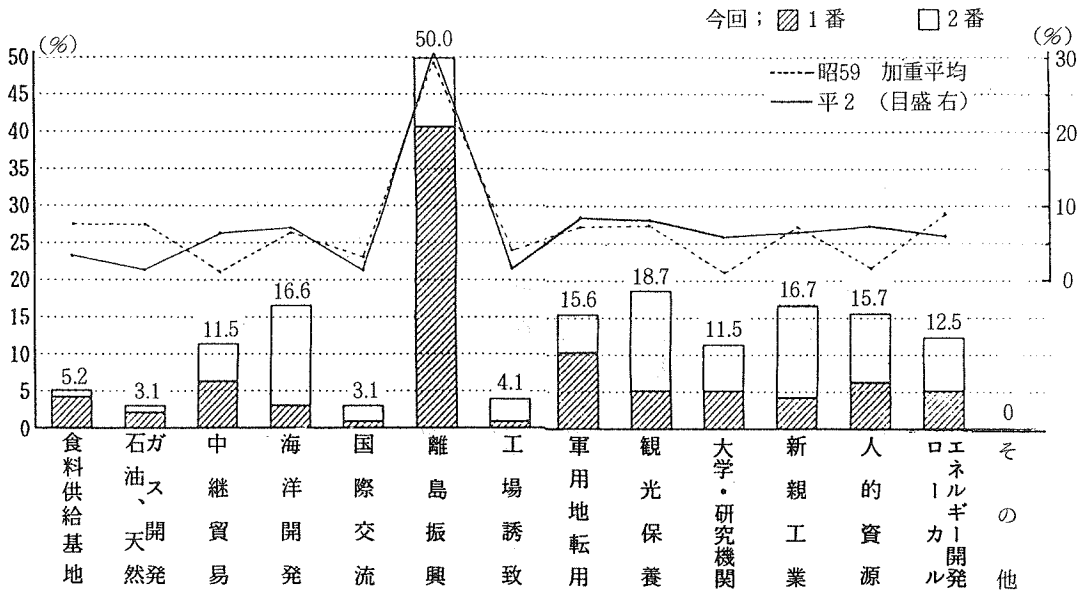
(那 覇)



(南 部)



(宮古)



(八重山)

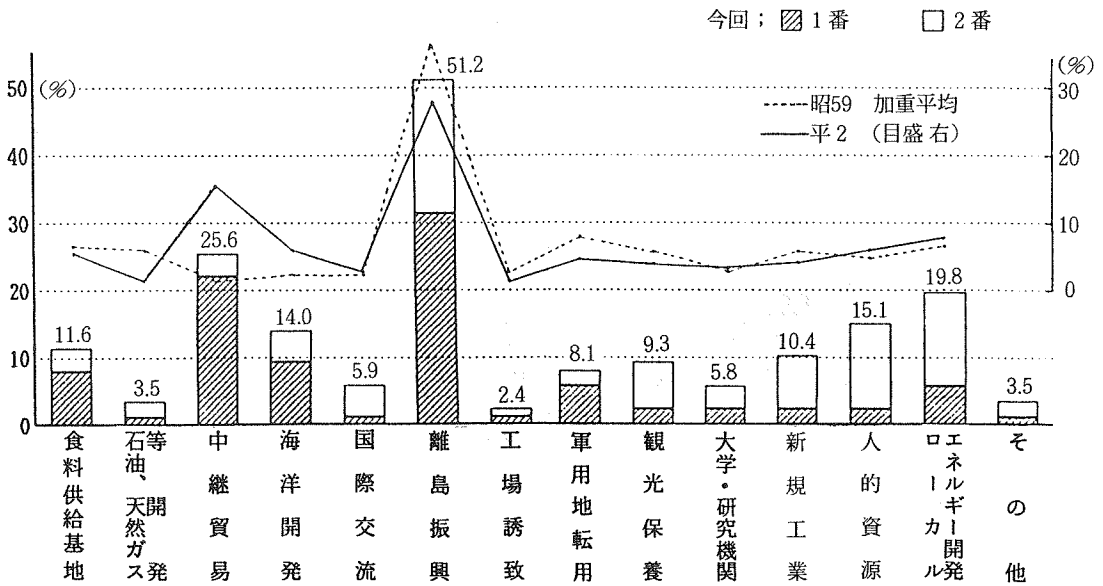


表4-3-1 県計、時系列及び地域別にみた重点振興方策の集計表

(単位：%)

問 16	県 計			時系列(2つ回答)			北 部				中 部			
	1番	2番	計	昭54	昭59	平2	1番	2番	加重平均		1番	2番	加重平均	
									昭59	平2			昭59	平2
1 食糧供給基地	7.0	1.8	8.8	19.2	12.2	8.7	11.8	2.3	9.2	8.6	7.4	1.5	7.2	5.4
2 石油天然ガス等開発	3.0	1.4	4.4	17.2	10.3	4.5	0.5	3.6	5.5	1.5	3.8	1.2	6.0	2.9
3 中継貿易基地	11.2	4.8	16.0	6.8	8.7	16.0	8.6	4.6	3.9	7.3	11.3	4.6	4.9	9.1
4 海洋開発	10.9	6.7	17.6	12.2	17.1	17.6	10.0	4.1	8.1	8.0	11.2	6.7	9.3	9.7
5 国際交流	6.9	5.6	12.5	3.3	5.9	12.5	5.0	5.0	1.9	5.0	6.3	6.9	9.5	6.5
6 離島振興	11.6	6.4	18.0	17.2	18.1	18.0	14.6	7.3	12.8	12.1	8.3	6.3	5.7	7.6
7 工場誘致	2.6	1.8	4.4	5.0	7.2	4.4	4.1	0.9	4.7	3.0	3.3	1.7	4.5	2.8
8 軍用地転用	15.7	11.2	26.9	19.0	21.8	26.8	10.5	10.9	7.7	10.6	18.3	12.0	12.4	16.2
9 観光保養基地	7.6	11.5	19.1	21.7	24.1	19.0	10.9	14.1	10.6	12.0	6.3	10.2	12.2	7.6
10 大学・研究機関整備	2.1	4.5	6.6	6.3	6.5	6.5	2.3	5.9	3.5	3.5	1.7	3.9	2.9	2.4
11 新規工業開発	5.0	10.1	15.1	15.1	16.6	15.0	3.2	7.7	9.5	4.7	5.1	11.4	7.0	7.2
12 人的資源の開発育成	5.9	8.8	14.7	7.8	9.2	14.7	6.8	8.6	2.9	7.4	5.2	7.9	4.2	6.1
13 ローカルエネルギーの開発	4.9	14.6	19.5	22.1	20.0	19.5	3.2	10.0	6.7	5.5	5.2	15.1	8.9	8.5
14 その他	1.0	0.4	1.4	0.9	1.1	1.3	0.5	0.0	0.1	0.3	1.2	0.3	0.5	0.9
15 わからない	3.2	6.3	9.5	12.7	11.2	9.5	4.6	8.2	—	—	3.8	5.5	—	—
16 無 答	1.9	4.2	6.1	9.1	7.4	6.1	3.6	6.8	—	—	1.7	4.8	—	—

表4-3-1 県計、時系列及び地域別にみた重点振興方策の県計表(つづき)

(単位: %)

問 16	那 覇				南 部				宮 古				八重山			
	1 番	2 番	加重平均		1 番	2 番	加重平均		1 番	2 番	加重平均		1 番	2 番	加重平均	
			昭59	平2			昭59	平2			昭59	平2			昭59	平2
1 食糧供給基地	5.4	1.7	5.7	4.1	5.8	2.2	7.6	4.6	4.2	1.0	8.7	3.1	8.1	3.5	7.3	6.6
2 石油天然ガス等開発	3.0	1.5	5.5	2.5	3.3	0.6	5.4	2.4	2.1	1.0	7.5	1.7	1.2	2.3	6.4	1.6
3 中継貿易基地	13.6	5.2	5.5	10.8	6.9	5.0	4.4	6.3	6.3	5.2	1.8	5.9	22.1	3.5	1.5	15.9
4 海洋開発	11.3	6.9	11.9	9.8	12.5	6.9	9.8	10.6	3.1	13.5	5.8	6.6	9.3	4.7	2.2	7.8
5 国際交流	8.7	5.7	4.0	7.7	9.2	3.9	2.4	7.4	1.0	2.1	2.9	1.4	1.2	4.7	2.1	2.3
6 離島振興	8.7	3.5	5.7	7.0	10.6	6.7	12.0	9.3	40.6	9.4	29.1	30.2	31.4	19.8	36.1	27.5
7 工場誘致	1.3	2.4	2.7	1.7	2.5	1.4	2.7	2.1	1.0	3.1	4.0	1.7	1.2	1.2	2.1	1.2
8 軍用地転用	15.8	13.5	12.8	15.0	15.3	8.9	10.8	13.1	10.4	5.2	7.1	8.7	5.8	2.3	8.3	4.7
9 観光保養基地	9.6	12.4	14.4	10.5	7.2	11.9	11.6	8.8	5.2	13.5	7.4	8.0	2.3	7.0	5.8	3.9
10 大学・研究機関整備	2.4	4.5	3.5	3.1	1.4	4.7	2.0	2.5	5.2	6.3	1.1	5.6	2.3	3.5	2.4	2.7
11 新規工業開発	5.2	7.7	6.7	6.1	6.4	11.7	8.2	8.1	4.2	12.5	7.3	6.9	2.3	8.1	6.1	4.3
12 人的資源の開発育成	6.6	10.1	5.6	7.7	6.9	8.1	4.2	7.3	6.3	9.4	2.0	7.3	2.3	12.8	4.9	5.8
13 ローカルエネルギーの開発	4.2	16.0	8.0	8.1	5.8	16.1	8.2	9.3	5.2	7.3	8.7	5.9	5.8	14.0	7.7	8.5
14 その他	1.0	0.3	0.5	0.8	0.8	0.3	0.5	0.6	0	0	0.4	0	1.2	2.3	1.2	1.6
15 わからない	2.0	6.4	-	-	3.1	7.2	-	-	3.1	5.2	-	-	1.2	8.1	-	-
16 無 答	1.2	2.2	-	-	2.2	4.4	-	-	2.1	5.2	-	-	2.3	2.3	-	-



## 4 市町村の振興方向

全県では「農業」(35.6%)を主体にすべきだとする人が減少し、「観光」(36.4%)、「商業」(44.6%)が増加している。中部、那覇以外では第1次産業を支持する割合は高く、また、時系列でみると北部で「観光」、宮古で「漁業」、八重山で「貿易」が高い伸びを示している。「農業」の支持割合は年齢が高いほど高く、「サービス業」はその逆の傾向になっている。

### (1) 県計、地域別の市町村の振興方向の推移

「今住んでいる市や町や村はどのような市町村をめざすべきか」という設問に対して、選択枝から順位をつけて2つ選んでもらった。昭和54年の調査では順位を付ずに回答しているため、時系列の比較は順位を考慮せずに単純合計の割合でみることにする。

県全体の推移は「農業」への振興を図るべきだとする人の割合が、調査毎に減少し、逆に、「商業」、「観光」が上昇している。今回は、「観光」が「農業」を上回り、前回3位から2位となっている。そのほか、「サービス業」、「伝統工芸」、「貿易」が増加傾向にある。

以下、地域別に推移をみる。北部地域では「農業」が約70%で推移し、県平均の2倍近くあって、かなり高くなっている。今回は「漁業」の後退と「観光」の伸びが目立っており、特に「観光」は前回よりも23.7ポイントの大幅な増加を示している。

中部地域は、ほぼ全県の傾向と同じ動きを示しており、「農業」の後退と「観光」、「伝統工芸」、「貿易」、「サービス業」の増加が目立っている。

那覇地域は、全県と比べ第1次産業、第2次産業の選好が低く、第3次産業の項目が高い値を示している。なかでも、「商業」、「サービス業」、「貿易」が高い伸びを示している。

南部地域は第1次産業の振興を主体とするべきだとする割合は高い水準にあるが、時系列でみると減少傾向にある。逆に、「観光」、「商業」、「サービス業」などの第3次産業部門や「伝統工芸」が増加傾向にある。

宮古地域は、「農業」、「漁業」、「観光」が他の項目よりも高くなっている。今回調査では、「漁業」の伸びが著しく、前回に比べ17.7ポイントの増加を示している。

八重山地域は、前回まで「農業」が第1位を占めていたが、今回21.6ポイントの低下により、「観光」に次いで第2位となっている。「漁業」、「観光」が漸増しているほか、「伝統工芸」、「貿易」が前回に比べ大幅に伸びている。

図4-4-1 市町村の振興方向の推移（全 県）

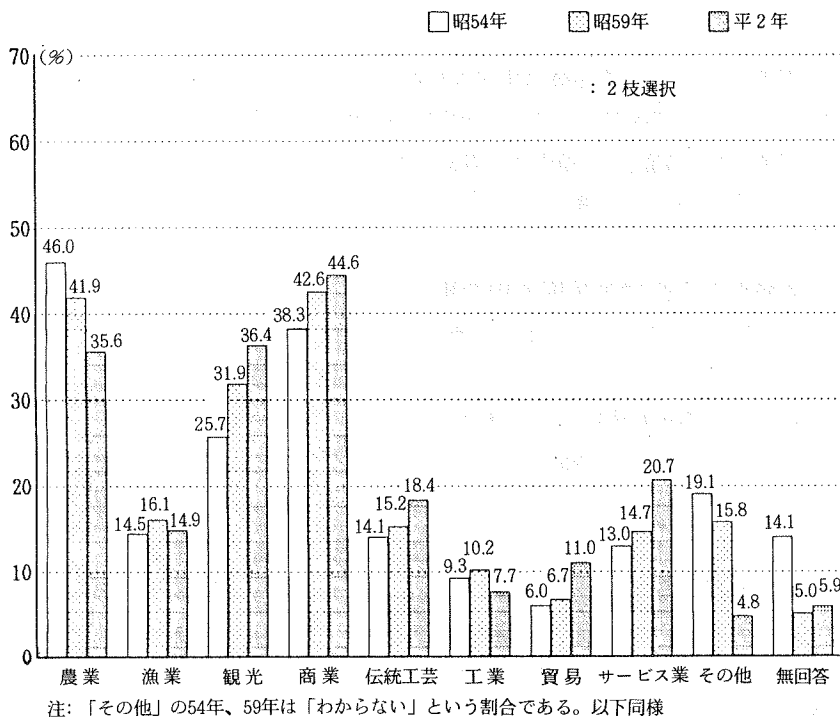
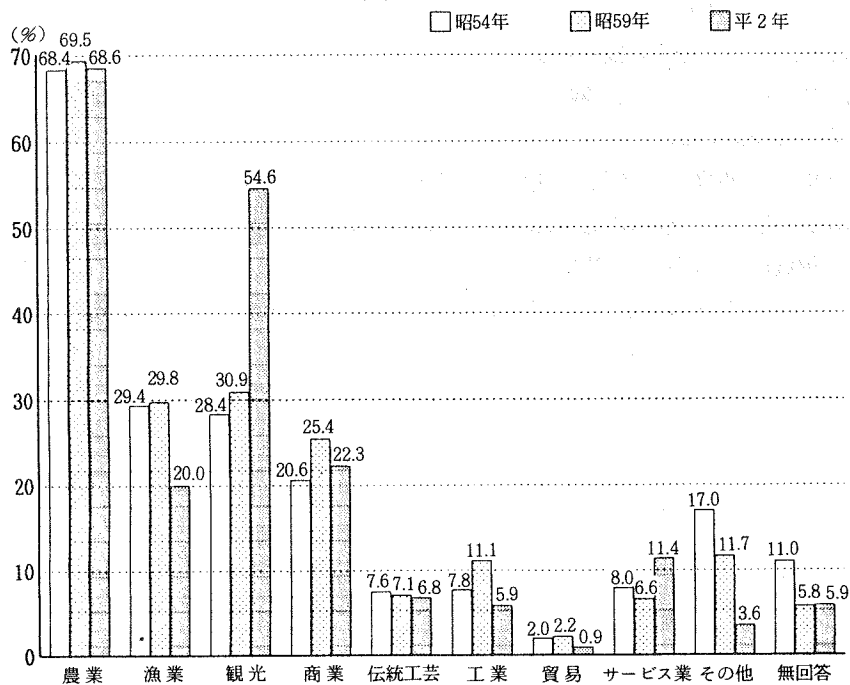
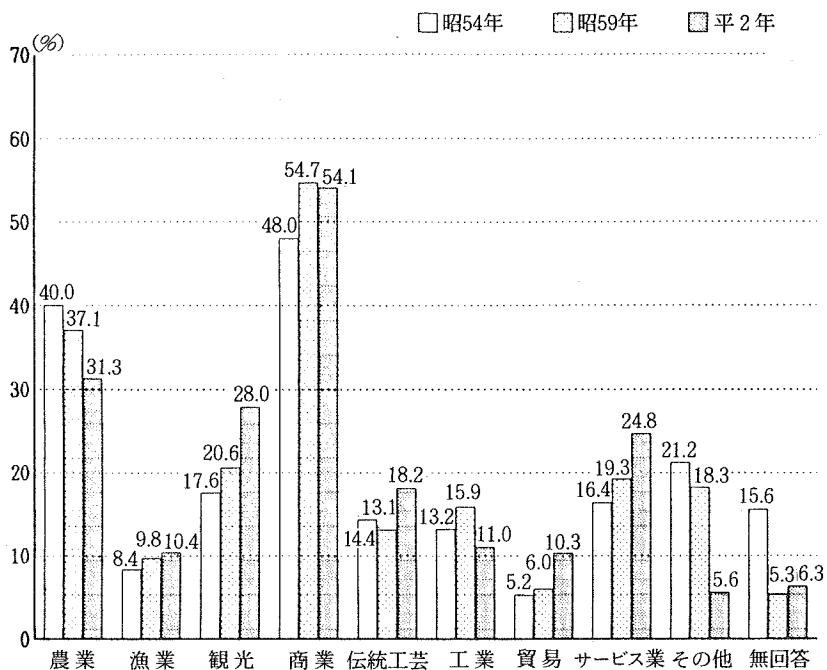


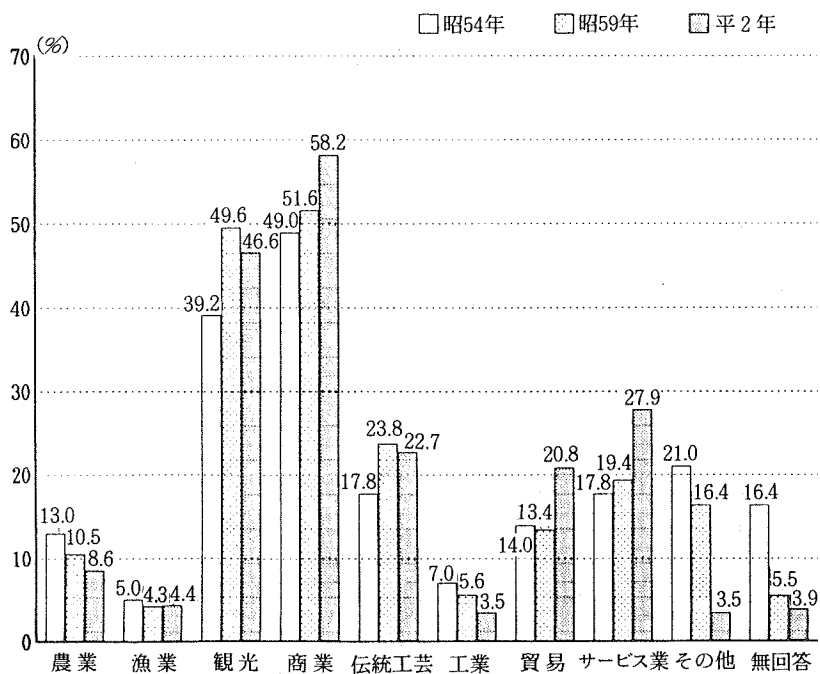
図4-4-2 地域別にみた市町村の振興方向  
(北 部)



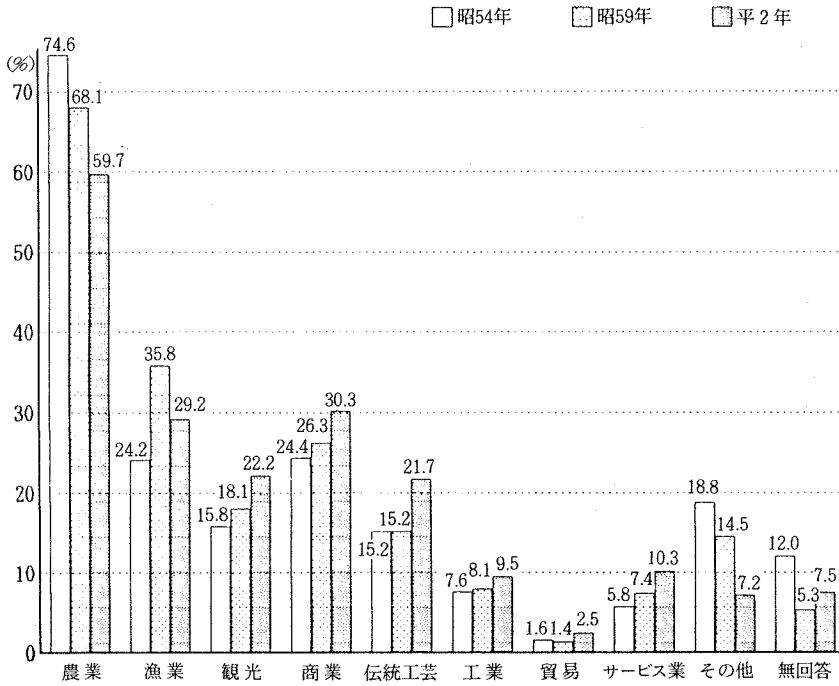
(中部)



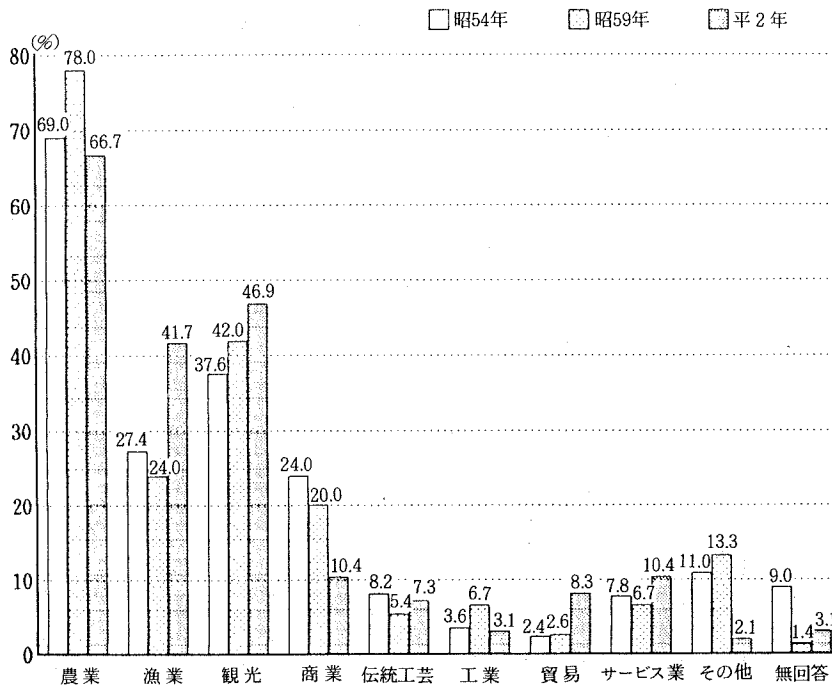
(那覇)



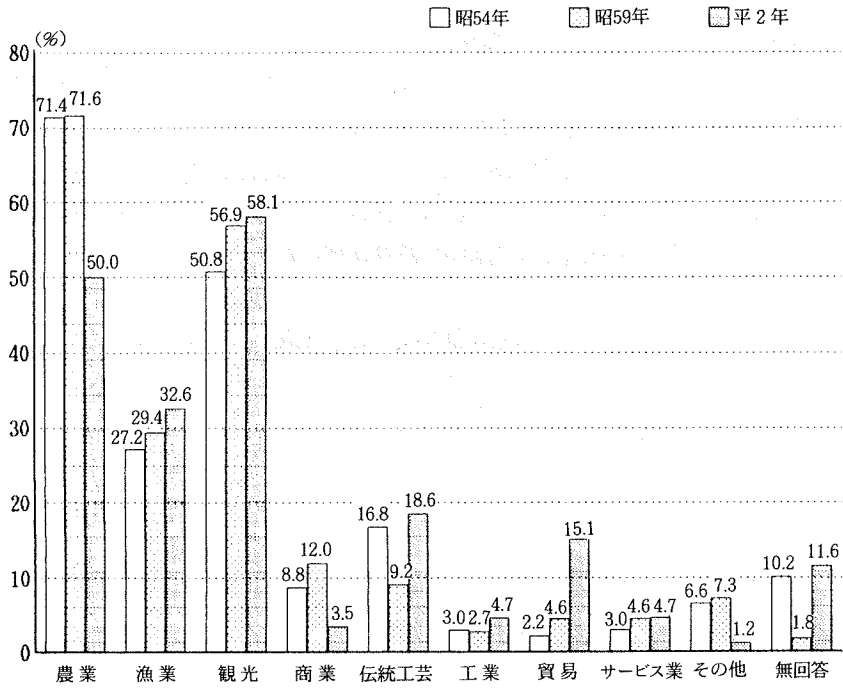
(南部)



(宮古)



(八重山)



## (2) 年齢階層別にみた振興方向

今回の調査結果を、1番目の割合に2点、2番目の割合に1点というウェイトを付けて平均した加重平均割合を用いて年齢階層間の比較を行う。

市町村の振興方向を「農業」とする人が比較的多くなっているが、その支持世代は異なり、「農業」を主体とした市町村をめざすべきだとする人は、年齢が高くなるほど多くなっている。

「農業」とは逆に、「サービス業」は年齢が若いほど、支持割合が高くなっている。また、「観光」をめざすべきだとする人も多いが、階層間の支持割合に大きな差はない。そのほか、「漁業」、「伝統工芸」などでは、その支持割合は階層間の差異はほとんどない。

図4-4-3 年齢別加重平均でみた市町村の振興方向

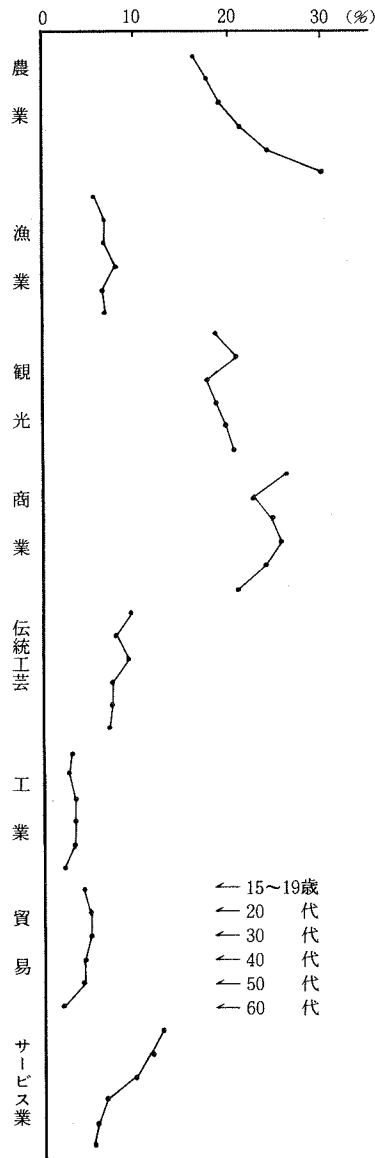


表4-4-1 県計、時系列及び属性別にみた市町村の振興方策の集計表

(単位：%)

問 15	全県 (M.A.)			北 部			中 部			那 覇			南 部		
	昭54	昭59	平 2	昭54	昭59	平 2	昭54	昭59	平 2	昭54	昭59	平 2	昭54	昭59	平 2
1 農 業	46.0	41.9	35.6	68.4	69.5	68.6	40.0	37.1	31.3	13.0	10.5	8.6	74.6	68.1	59.7
2 漁 業	14.5	16.1	14.9	29.4	29.8	20.0	8.4	9.8	10.4	5.0	4.3	4.4	24.2	35.8	29.2
3 観 光	25.7	31.9	36.4	28.4	30.9	54.6	17.6	20.6	28.0	39.2	49.6	46.6	15.8	18.1	22.2
4 商 業	38.3	42.6	44.6	20.6	25.4	22.3	48.0	54.7	54.1	49.0	51.6	58.2	24.4	26.3	30.3
5 伝統工芸	14.1	15.2	18.4	7.6	7.1	6.8	14.4	13.1	18.2	17.8	23.8	22.7	15.2	15.2	21.7
6 工 業	9.3	10.2	7.7	7.8	11.1	5.9	13.2	15.9	11.0	7.0	5.6	3.5	7.6	8.1	9.5
7 貿 易	6.0	6.7	11.0	2.0	2.2	0.9	5.2	6.0	10.3	14.0	13.4	20.8	1.6	1.4	2.5
8 サービス業	13.0	14.7	20.7	8.0	6.6	11.4	16.4	19.3	24.8	17.8	19.4	27.9	5.8	7.4	10.3
9 その他 (わからない)	19.1	15.8	4.8	17.0	11.7	3.6	21.2	18.3	5.6	21.0	16.4	3.5	18.8	14.5	7.2
10 無 答	14.1	5.0	5.9	11.0	5.8	5.9	15.6	5.3	6.3	16.4	5.5	3.9	12.0	5.3	7.5

注：全県、地域別は単純合計である。

表4-4-1 県計、時系列及び属性別にみた市町村の振興方策の集計表(つづき)

(単位：%)

問 15	宮 古			八重山			年齢別加重平均						平成2年 県計(M.A.)	
	昭54	昭59	平2	昭54	昭59	平2	15~ 19歳	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	1番	2番
1 農 業	69.0	78.0	66.7	71.4	71.6	50.0	16.3	17.5	19.0	20.9	24.0	29.9	29.6	6.0
2 漁 業	27.4	24.0	41.7	27.2	29.4	32.6	5.6	6.8	6.7	7.8	6.6	6.4	5.6	9.2
3 観 光	37.6	42.0	46.9	50.8	56.9	58.1	18.7	20.7	17.6	18.5	19.8	20.5	20.9	15.5
4 商 業	24.0	20.0	10.4	8.8	12.0	3.5	25.9	22.6	24.7	25.5	23.6	20.7	26.9	17.7
5 伝統工芸	8.2	5.4	7.3	16.8	9.2	18.6	9.7	7.7	9.2	7.4	7.5	7.0	5.4	13.0
6 工 業	3.6	6.7	3.1	3.0	2.7	4.7	3.1	3.0	3.7	3.5	3.6	2.4	2.1	5.6
7 貿 易	2.4	2.6	8.3	2.2	4.6	15.1	4.7	5.2	5.4	4.4	4.7	2.4	2.5	8.5
8 サービス業	7.8	6.7	10.4	3.0	4.6	4.7	12.8	11.4	9.8	6.9	5.9	5.6	3.5	17.2
9 その他 (わからない)	11.0	13.3	2.1	6.6	7.3	1.2	1.6	2.0	1.5	2.7	1.8	2.8	1.4	3.5
10 無 答	9.0	1.4	3.1	10.2	1.8	11.6	1.6	3.2	2.6	2.5	2.6	2.5	2.1	3.8



## 5 国際化、県際化への対応

国際化、県際化に向けてどのような対応がいいのかを三番目まであげてもらった。総合すると、県外の人にも喜ばれる「個性ある美しいまちづくり」(複数回答55.8%)が最も高く、「国際社会に通用するマナー、教養を身につける」(43.3%)、「地域の歴史、文化などに関心を持つ」(43.2%)とつづいている。「マナー、教養の向上」は女性で高く、また、「留学生等の派遣、受入れを増やす」ことについては外国居住経験者の選好度が高くなっている。

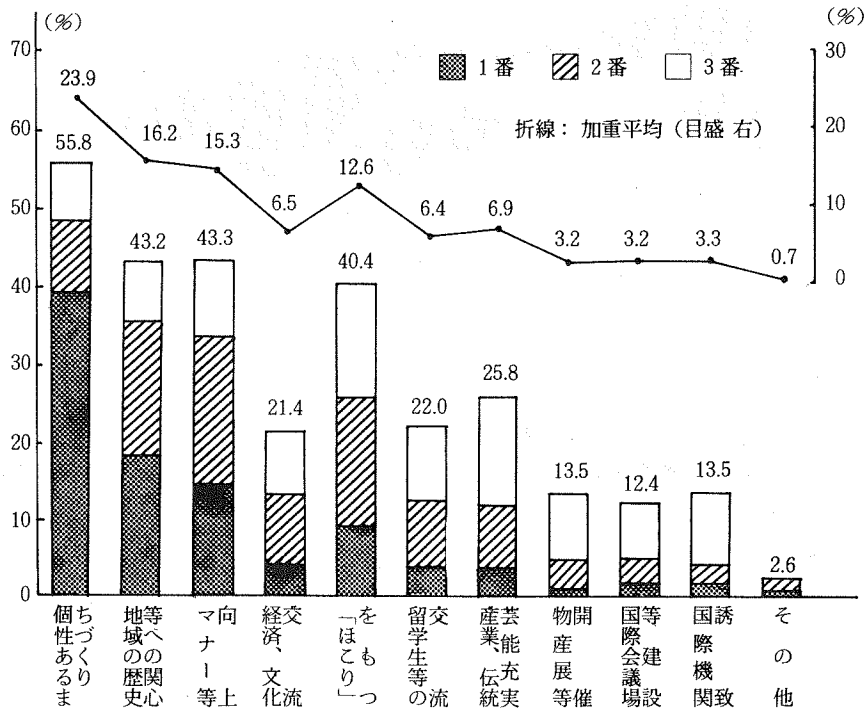
### (1) 県計でみた国際化、県際化への対応

国際交流機関の設置や観光客の増大等にみられるように、近年本県と外国、本土との間には人、物、情報、資本等の交流が拡大する方向にある。このような社会、経済の変化に対して県民、行政等の対応のあり方を尋ねた。

11の選択枝から順位をつけて3番目まで回答してもらった結果、1番目に選好された対応としては「県外の人にも喜ばれる個性あるまちづくり」(39.3%)が最も高くなっている。次いで「地域の歴史、文化などへの関心をもつ」(18.4%)、「マナー、教養等の向上」(14.6%)、「県民としてのほこりをもつ」(9.2%)となっている。

1番目に3点、2番目に2点、3番目に1点をウェイトした加重平均でみると、項目間の関係は1番目に選好される割合の順位とほぼ同じ状況にあるが、1位と2位の比が広がり、単純合計よりも1位の選好度が高まっている。

図4-5-1 国際化、県際化への対応(県計)

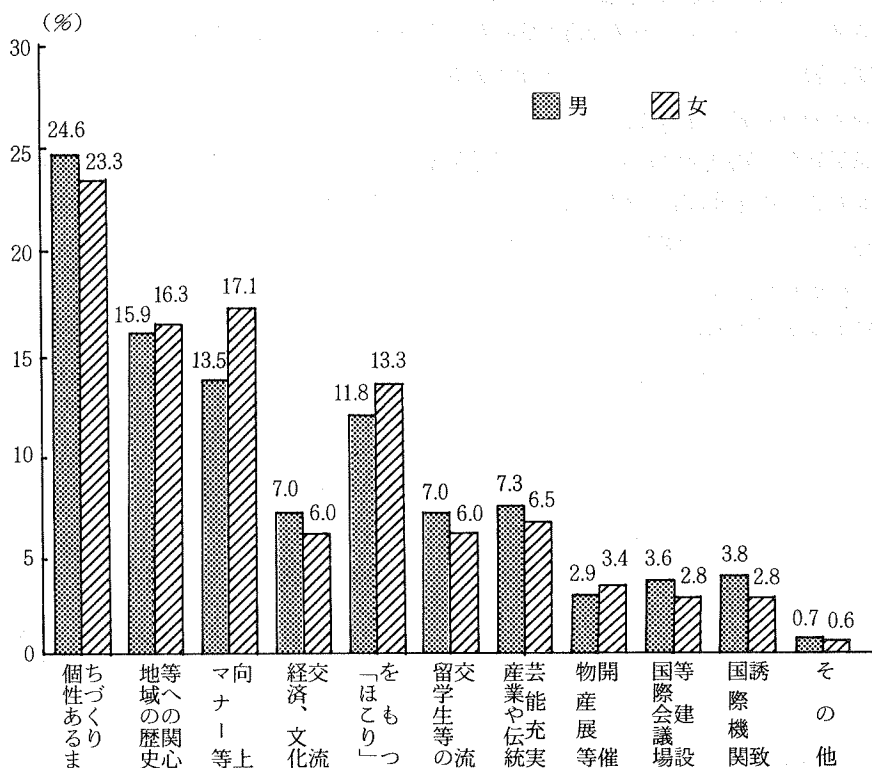


## (2) 性別にみた国際化、県際化への対応

性別加重平均で男女の対応のあり方をみる。女性の選好が高い項目は、「地域の歴史等への関心」、「マナー教養等の向上」、「県民としてのほこりをもつ」であり、精神面に関する項目が選好されているようである。

特に、「マナー、教養等の向上」については男女差が大きく、3.6ポイント女性が上回っている。そのほかの項目は男女差が、0.1～1.5ポイント内にある。

図4-5-2 性別加重平均でみた国際化、県際化への対応



## (3) 県外居住経験別でみた国際化、県際化への対応

ここでは県外に居住し、県外から本県をみた経験のある人とそうでない人との対応の違いをみる。県外に居住した経験のある人をさらに、国内と外国にわけてみるが、その構成割合は、有効回答数の34.4%と3.7%となっている。外国の居住経験者の回答数が低いため、誤差が大きくなる可能性はあるが、参考程度に比較してみる。「個性あるまちづくり」、「地域産業や伝統芸能充実」、「国際機関誘致」では国内居住経験者が経験のない者より高い値となっている。外国居住経験者の状況をみると、他の2者より「地域の歴史等への関心」が6～7ポイント低く、「留学生等の交流」で3～4ポイント高くなっている。

図 4 - 5 - 3 県外移住経験別でみた国際化、県際化への対応

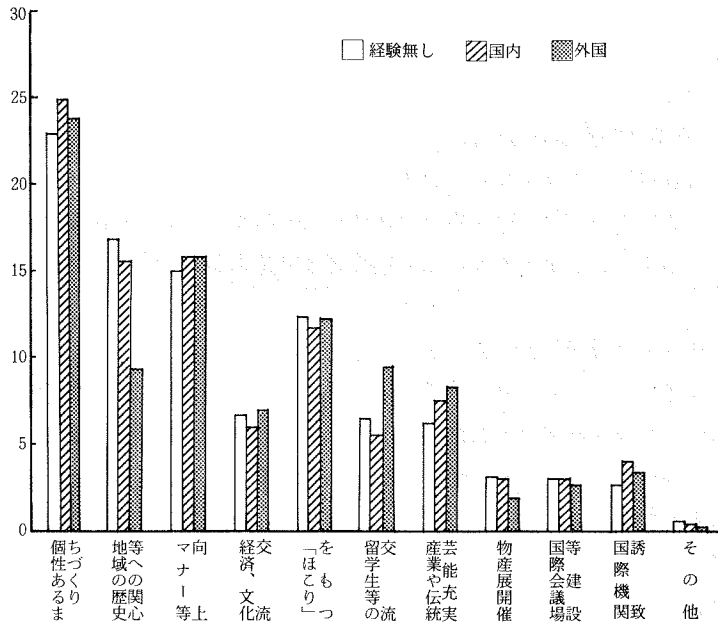


表 4 - 5 - 1 県計、属性別にみた国際化、県際化への対応の集計表

(単位：%)

問 9	県 計				性別加重平均		県外居住経験別加重平均		
	1 番	2 番	3 番	加重平均	男	女	外国	国内	経験無
1 個性のあるまちづくり	39.3	9.1	7.4	23.9	24.6	23.3	24.0	25.0	23.2
2 地域の歴史文化に関心を持つ	18.4	17.1	7.7	16.2	15.9	16.3	9.5	15.7	16.8
3 国際社会に通じるエチケット等	14.6	19.0	9.7	15.3	13.5	17.1	16.0	16.0	15.2
4 経済、学術、文化、スポーツ交流	4.2	9.2	8.0	6.5	7.0	6.0	7.2	6.2	7.0
5 県民として「ほこり」をもって行動	9.2	16.6	14.6	12.6	11.8	13.3	12.5	12.0	12.7
6 留学生等の交流	4.0	8.6	9.4	6.4	7.0	6.0	9.7	5.7	6.7
7 産業、伝統芸能の整備育成	3.6	8.3	13.9	6.9	7.3	6.5	8.5	7.7	6.5
8 物産展等建設	0.8	4.1	8.6	3.2	2.9	3.4	2.0	3.2	3.3
9 国際会議場等建設	1.8	3.1	7.5	3.2	3.6	2.8	2.8	3.2	3.2
10 国際機関誘致	1.8	2.5	9.2	3.3	3.8	2.8	3.5	4.2	2.8
11 その他	0.7	0.3	1.6	0.7	0.7	0.6	0.3	0.5	0.7
12 無 答	1.6	2.2	2.5	2.0	1.8	2.0	3.7	0.7	2.0

## 6 リゾート振興のメリット、デメリット

リゾート振興のメリットは「地元での雇用機会が増える」ことが57.2%で最も高く、逆にデメリットは「自然環境の悪化」72.2%や「地価の高騰」62.7%が高くなっている。年齢階層間でみると、「雇用機会の増加」をあげる人は高年齢層ほど多く、「自然環境の悪化」は20～40歳代で、「地価の高騰」については30歳代以上が多くなっている。

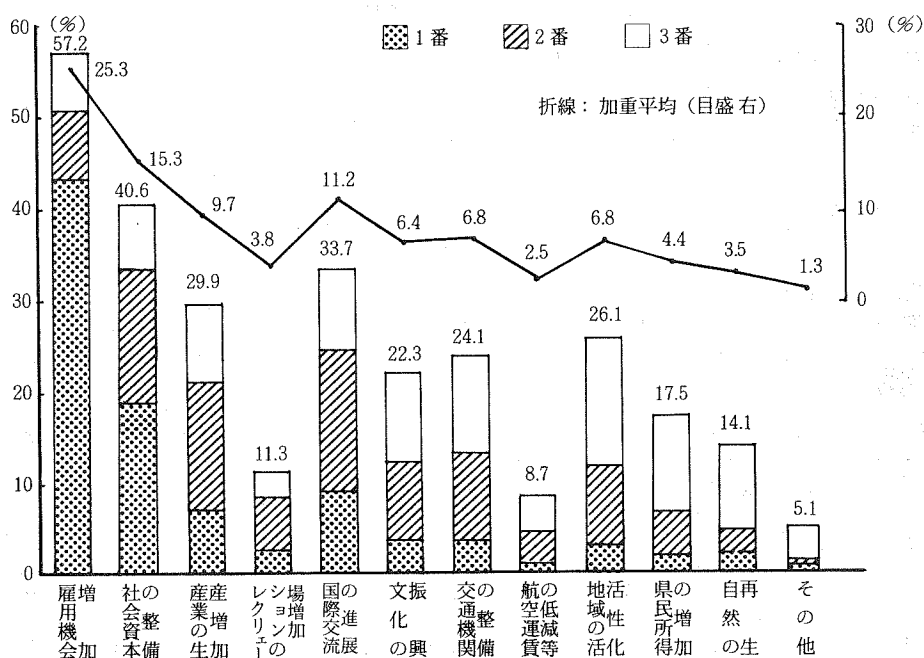
地域別でみると、北部地域では「雇用機会の増加」、先島地域では「地域の活性化に役だつ」がメリットとなっているほか、八重山地域では「社会資本の整備が進む」ことが目立っている。

### (1) 県計でみたリゾート振興のメリット、デメリット

本県がリゾート地化していくことが、県民の生活等に与える影響について順位を付けて3つまで選んでもらった。プラス面での回答結果をみると、「雇用機会の増加」が最も高い値を示し1番目に選好された割合は43.5%、3番目までの割合を単純に加えた割合でも57.2%と10人中約6人が3番以内を選んだことになる。つづいて、「社会資本の整備」(40.6%)、「国際交流の促進」(33.7%)、「県内産業の生産増加」(29.9%)となっている。逆に、「レクリエーションの場の増加」(11.3%)や「航空運賃の低減や生活物資が安くなる」(8.7%)が低い項目となっている。

1番目に3点、2番目に2点、3番目に1点を配点した加重平均でみると、単純合計でみた順位は変わらないが、1位と2位、1位と3位の比重は、それぞれ10%ポイント、15%ポイント拡大してしまい、「雇用機会の増加」選好度が高まっている。

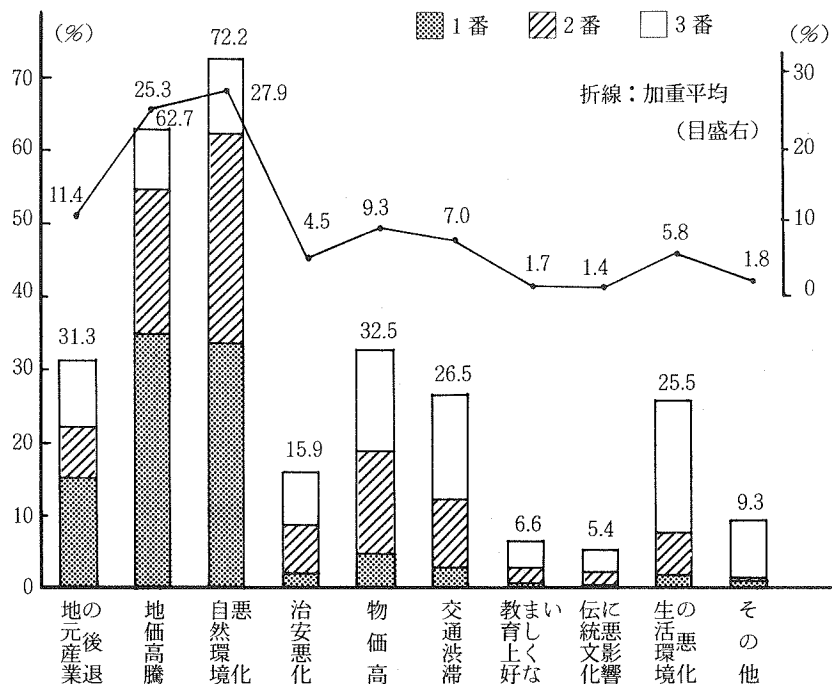
図4-6-1 リゾート振興のメリット(県計)



一方、マイナス面での影響をみると、「自然環境が悪化する」と「地価が高くなる」ことが、極めて高くなっている。これら項目を1番目に回答した割合は、それぞれ33.4%、34.8%、また、1～3番目までの複数回答では72.2%、62.7%となっている。逆に、「伝統文化に悪い影響を与える」や「教育上好ましくない」は、低い割合となっている。

加重平均でみると、単純合計でみた1位と2位の比重は1：1.15から1：1.1に縮まっている。また、「地元産業の後退」が「物価高」よりも選好されている。

図4-6-2 リゾート振興のデメリット（県計）



## (2) 性別にみたリゾート振興のメリット、デメリット

男女とも「雇用機会が増加する」ことを第1のメリットと考えているが、相対的に男女差の大きな項目としては、「社会資本の整備が進む」、「国際交流に役だつ」と「地域の活性化に役だつ」である。このうち「国際交流に役だつ」ことがメリットと考える人の割合は、女性が1.9ポイント高くなっている。

一方、デメリットとして考えられている第1の項目は、男性が「地価の高騰」と「自然環境の悪化」であり、女性は「自然環境の悪化」となっている。男女差の大きな項目をみると、「地元産業が退けられる」については女性が2.7ポイント高く、「地価の高騰」については男性が4.5ポイント高くなっている。

図4-6-3 性別加重平均でみたリゾート振興のメリット

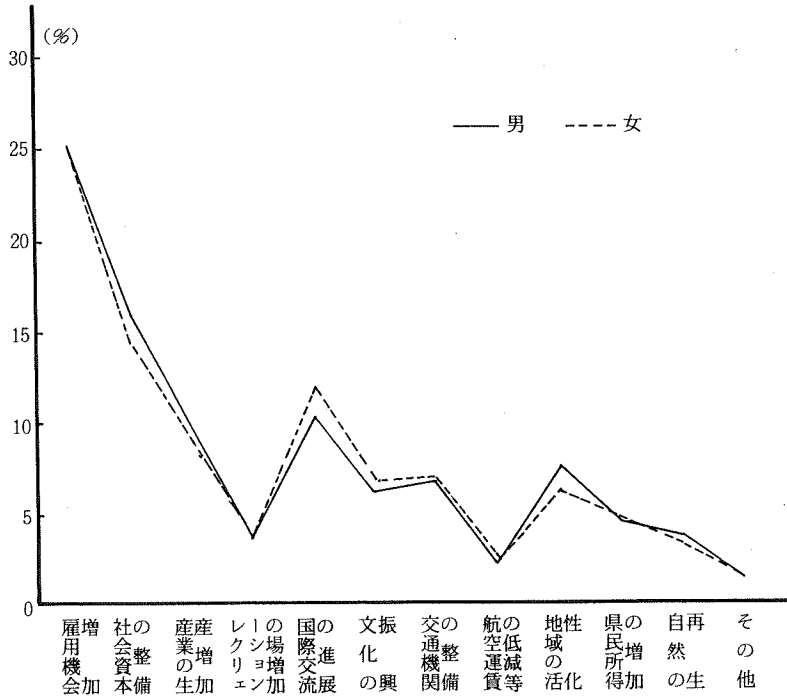
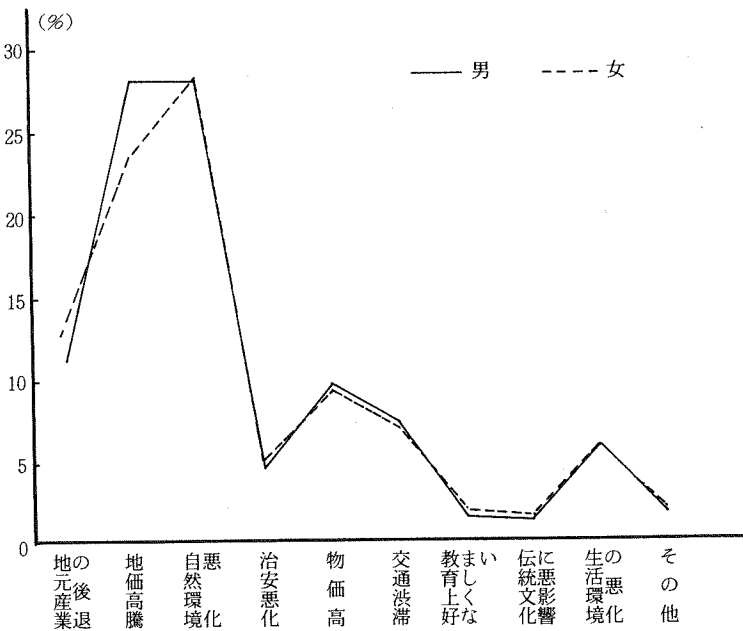


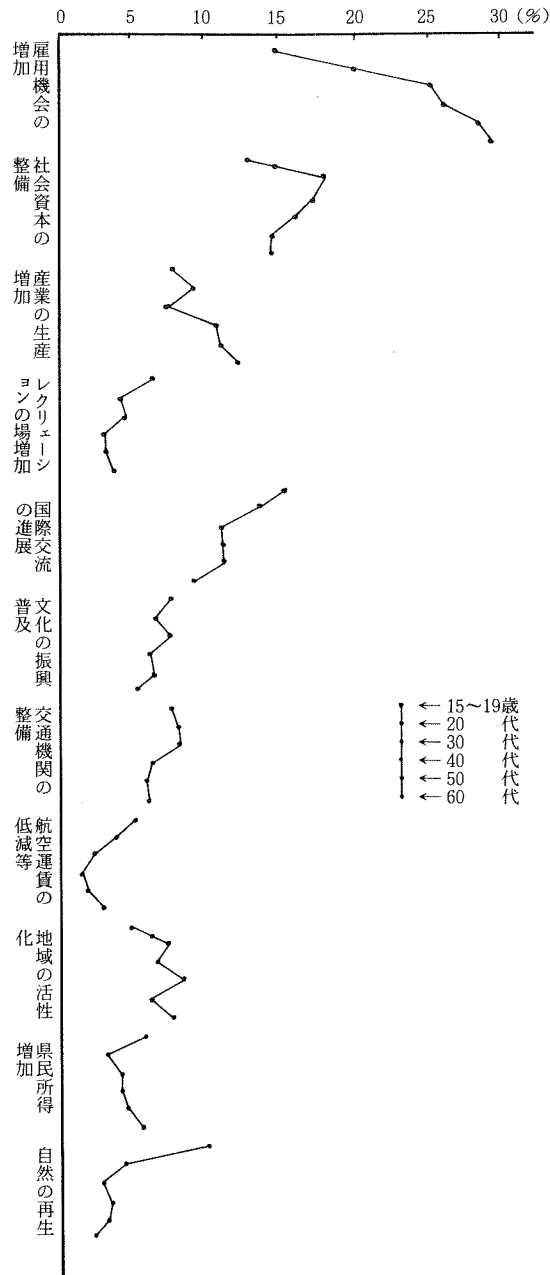
図4-6-4 性別加重平均でみたリゾート振興のデメリット



### (3) 年齢別にみたリゾート振興のメリット、デメリット

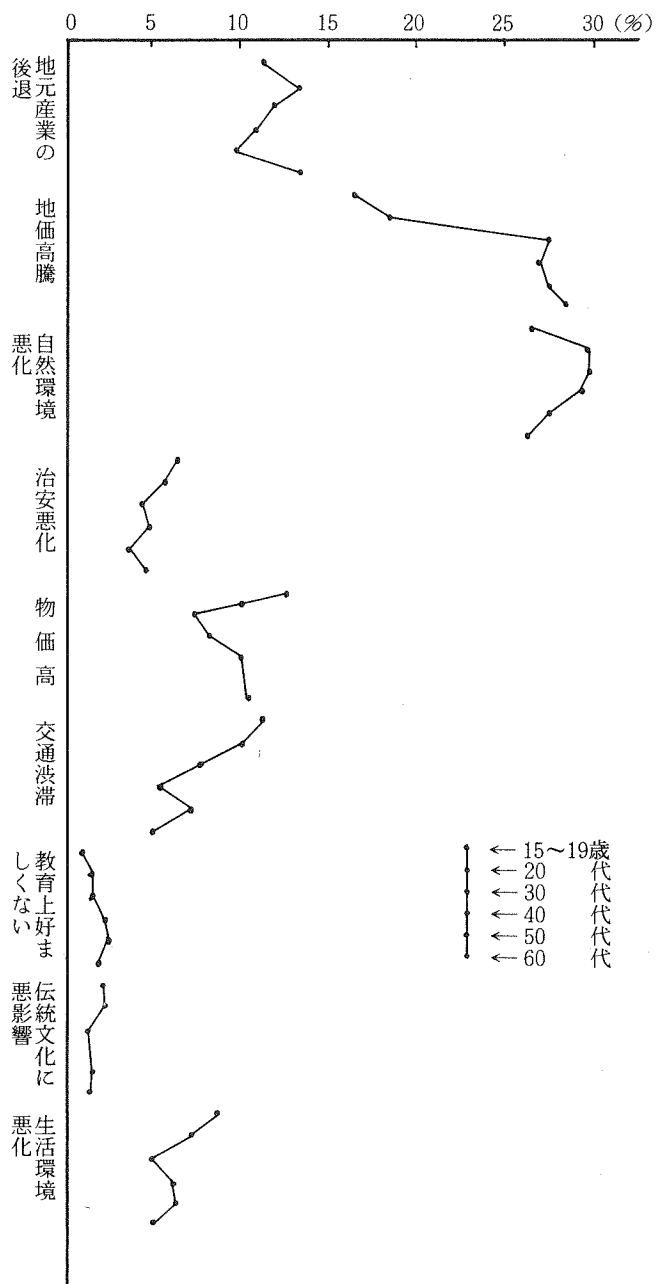
加重平均割合によりメリットをみると、「雇用機会の増加」は年齢階層が高くなるほど、高い割合となっている。「県内産業の生産が増える」についても、30歳代を除けば同様の傾向にある。逆に、若年層ほど高い割合を示している項目は、「レクリエーションの場が増える」、「国際交流に役だつ」、「自然の再生」となっている。

図4-6-5 年齢別加重平均でみたリゾート振興のメリット



一方、デメリットについてみると「自然環境悪化」が各階層とも強く意識されているほか、30歳代以上で「地価の高騰」が高い割合を示している。また、「交通渋滞」や「生活環境の悪化」は若年齢層で高く、「物価高」は20歳代以下や50歳代以上で高くなっている。

図4-6-6 年齢別加重平均でみたリゾート振興のデメリット





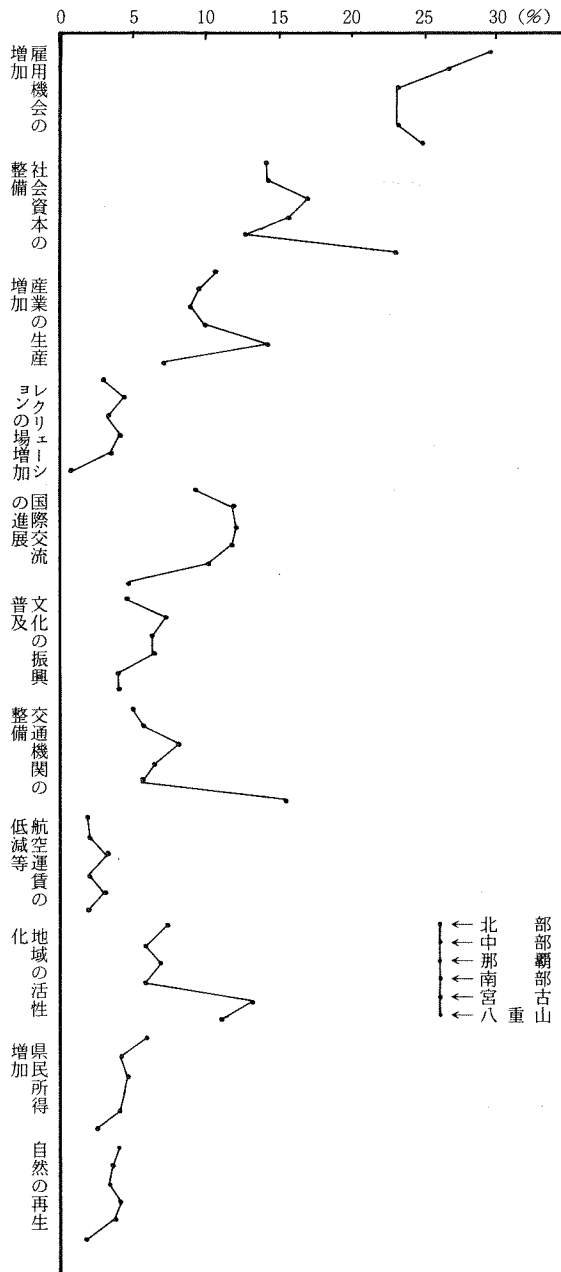
(4) 地域別にみたリゾート振興のメリット、デメリット

各地域とも「雇用機会の増加」や「社会資本の整備」が高い割合を示しているが、他地域との比較では次のようなことが特徴となっている。

北部地域では、「雇用機会が増加する」ことが、メリットとして強く意識されている。

中部地域では「国際交流に役だつ」とする割合が比較的高い。

図4-6-7 地域別加重平均でみたリゾート振興のメリット



那覇地域では「国際交流に役だつ」が1番、「社会資本の整備が進む」と「交通機関の整備が進む」が2番目に高い。

南部地域は「国際交流に役だつ」とする割合が比較的高い。

宮古地域は「産業の生産が増加する」と「地域の活性化が図られる」が最も高くなっている。

八重山地域は「社会資本の整備が進む」と「交通機関の整備が進む」ことがかなり高くなっている。

デメリットについては、各地域とも「地価高騰」、「自然環境の悪化」が強く意識されている。

地域間比較で特徴的なものをみると、「交通渋滞」が那覇で最も高く、先島地域で低くなっている。北部や八重山では「生活環境の悪化」が高く、宮古では「地元産業の後退」や「物価高」が最も高くなっている。

図4-6-8 地域別加重平均でみたリゾート振興のデメリット

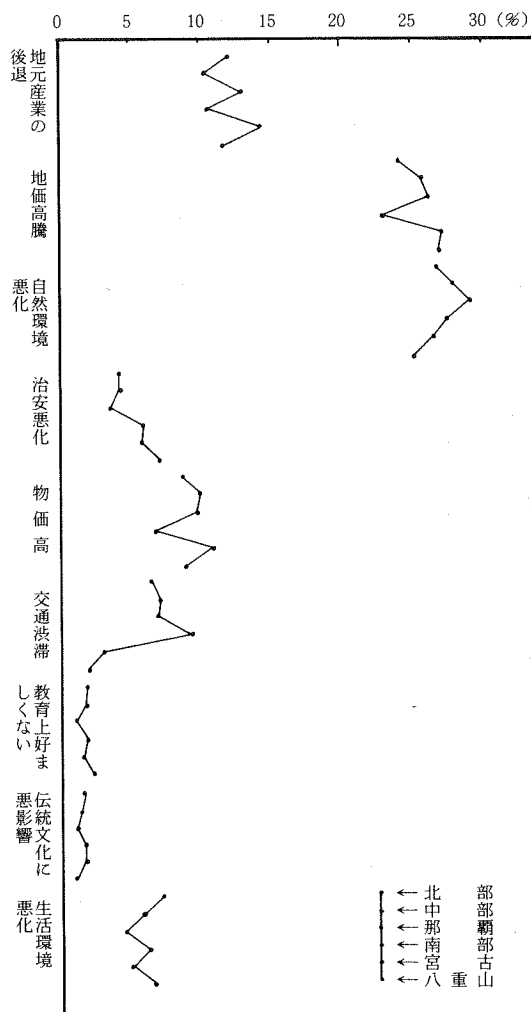


表4-6-1 県計、属性別にみたリゾート振興のメリットの集計表

(単位：%)

問 14 (メリット)	県 計				性別加重平均		年 齢 別 加 重 平 均					
	1 番	2 番	3 番	加重 平均	男	女	15～ 19歳	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69
1 雇 用 機 会	43.5	7.4	6.3	25.3	25.3	25.2	14.5	20.0	25.1	26.0	28.5	29.4
2 社 会 資 本 の 整 備	17.9	15.7	7.0	15.3	16.1	14.7	12.7	15.8	17.3	16.0	14.3	14.2
3 産 業 の 生 産 向 上	7.1	14.1	8.7	9.7	10.0	9.4	7.6	9.1	7.3	10.5	10.7	12.1
4 レクリエーションの場増加	2.7	5.8	2.8	3.8	3.6	3.8	6.3	4.0	4.4	3.0	3.0	3.5
5 国 際 交 流 の 進 展	9.1	15.7	8.9	11.2	10.3	12.2	15.2	13.6	10.9	11.0	11.1	8.9
6 文 化 の 振 興 普 及	3.9	8.5	9.9	6.4	6.1	6.8	7.5	6.3	7.5	6.1	6.3	5.1
7 交 通 機 関 の 整 備	3.8	9.5	10.8	6.8	6.7	7.0	7.5	8.1	8.2	6.2	5.7	6.0
8 航 空 運 賃 の 低 減 等	1.3	3.5	3.9	2.5	2.2	2.6	5.1	3.8	2.2	1.5	1.8	2.7
9 地 域 の 活 性 化	3.2	8.8	14.1	6.8	7.5	6.3	4.8	7.3	6.5	8.2	6.1	7.5
10 県 民 所 得 増 加	2.1	4.8	10.6	4.4	4.4	4.5	5.8	3.0	4.2	4.2	4.6	5.4
11 自 然 の 再 生	2.2	2.7	9.2	3.5	3.7	3.4	10.0	4.3	2.8	3.3	3.1	2.2
12 そ の 他	1.1	0.3	3.7	1.3	1.4	1.2	1.0	1.5	1.1	1.5	1.4	1.0
13 無 答	2.2	3.4	4.1	2.9	2.7	2.8	2.0	3.4	2.6	2.5	3.6	1.9

表4-6-1 県計、属性別にみたリゾート振興のメリットの集計表（つづき）

（単位：％）

問 14 (メリット)	地域別加重平均					
	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
1 雇用機会	29.7	26.6	23.1	23.4	23.1	24.8
2 社会資本の整備	14.2	14.1	16.9	15.6	12.5	22.9
3 産業の生産向上	10.8	9.6	8.9	10.0	14.2	7.0
4 レクリエーションの場	3.1	4.4	3.2	4.3	3.6	1.0
5 国際交流	9.2	11.8	12.0	11.7	10.2	4.7
6 文化の振興普及	4.6	7.2	6.4	6.6	4.0	4.1
7 交通機関の整備	5.0	5.8	8.2	6.6	5.7	15.3
8 航空運賃の低減等	2.1	2.3	3.2	1.9	3.0	2.1
9 地域の活性化	7.2	5.9	7.1	5.8	13.2	11.0
10 県民所得増加	5.9	4.2	4.4	4.5	4.0	2.5
11 自然の再生	4.0	3.5	3.3	4.3	3.5	1.7
12 その他	1.1	1.2	1.2	1.7	1.2	1.2
13 無 答	3.0	3.3	2.1	3.7	1.7	1.7

表4-6-2 県計、属性別にみたリゾート振興のデメリットの集計表

(単位：%)

問 14 (デメリット)	県 計				性別加重平均		年 齢 別 加 重 平 均					
	1 番	2 番	3 番	加重 平均	男	女	15～ 19歳	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69
1 地元産業後退	15.2	6.9	9.2	11.4	10.0	12.7	11.3	13.0	11.7	10.6	9.6	13.2
2 地 価 高 騰	34.8	19.7	8.2	25.3	27.7	23.2	16.4	18.2	27.2	26.8	27.1	28.3
3 自然環境悪化	33.4	28.8	10.0	27.9	27.7	28.2	26.3	29.5	29.4	29.0	26.8	26.0
4 治 安 悪 化	2.3	6.6	7.0	4.5	4.2	4.7	6.3	5.5	4.2	4.5	3.6	4.5
5 物 価 高	4.8	14.1	13.6	9.3	9.6	9.2	12.4	7.2	8.0	9.8	10.0	10.1
6 交 通 渋 滞	3.1	9.3	14.1	7.0	7.2	6.8	10.9	9.9	7.3	5.0	7.1	4.8
7 教育上好ましくない	0.6	2.4	3.6	1.7	1.5	1.8	0.6	1.4	1.4	1.9	2.2	1.7
8 伝統文化に悪影響	0.3	2.2	2.9	1.4	1.2	1.5	1.9	1.9	1.1	1.2	1.3	1.3
9 生活環境悪化	1.8	5.6	18.1	5.8	5.8	5.8	8.5	7.1	4.6	5.9	6.0	4.9
10 そ の 他	0.7	0.5	8.1	1.8	1.7	1.9	1.5	2.0	2.1	1.7	1.9	1.5
11 無 答	3.2	4.2	5.4	3.9	3.4	4.1	3.8	4.2	3.0	3.7	4.5	3.7

表4-6-2 県計、属性別にみたリゾート振興のデメリットの集計表（つづき）

（単位：％）

問 14 (デメリット)	地域別加重平均					
	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
1 地元産業後退	12.0	10.2	13.1	10.6	14.4	11.8
2 地価高騰	24.2	25.6	26.2	23.0	27.1	26.9
3 自然環境悪化	26.7	28.0	29.2	27.6	26.4	25.2
4 治安悪化	4.2	4.2	3.6	6.0	5.7	7.0
5 物価高	8.6	10.1	9.8	6.7	10.9	8.9
6 交通渋滞	6.5	7.1	7.0	9.2	3.1	2.1
7 教育上好ましくない	1.9	1.8	1.2	2.1	1.6	2.3
8 伝統文化に悪影響	1.6	1.4	1.1	1.6	1.7	1.2
9 生活環境悪化	7.3	5.9	4.6	6.3	5.2	6.8
10 その他	1.9	1.8	1.7	1.9	2.1	2.1
11 無 答	5.2	4.1	2.4	5.0	1.7	5.6

## 7 米軍基地への対応

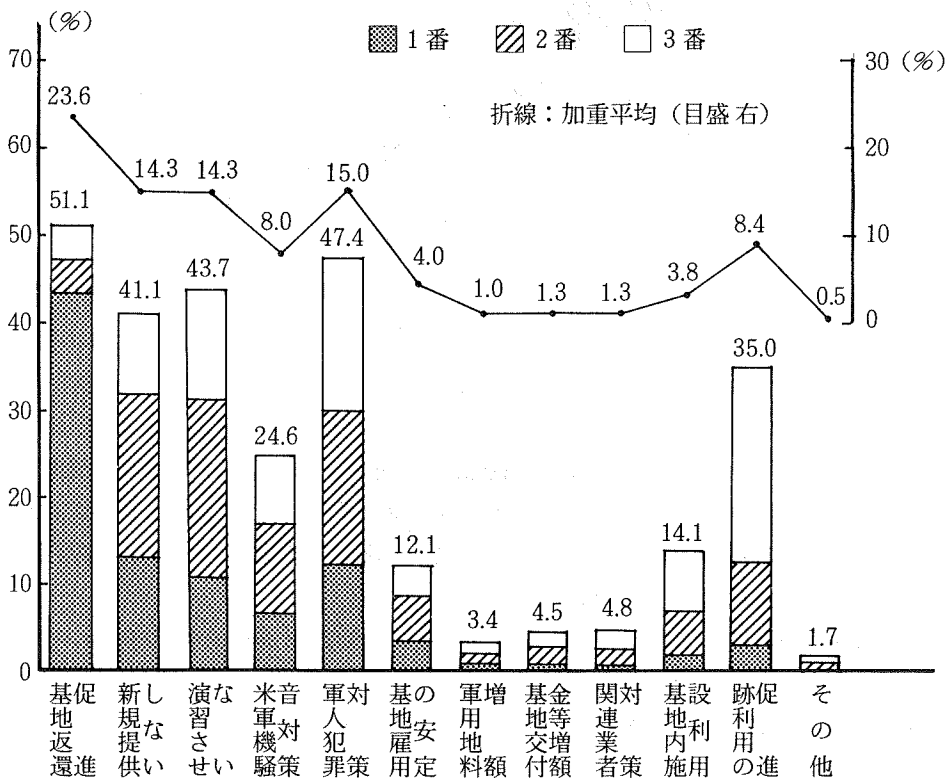
米軍基地について、とくに県や国に力を入れてほしい施策を三番目まであげてもらった。その結果、概ね半数以上の人々が米軍基地の返還促進を強く望んでおり、10年前よりも増加しているが、基地の多い地域では低くなっている。また、基地被害の対策は基地の多い地域で強く望まれているが、同時に基地雇用の安定や軍用地料の増加要求も他の地域より高くなっている。

### (1) 県計でみた米軍基地対策

米軍基地に関連して、とくに県や国に力を入れてほしいものについて12項目から順位をつけて3項目選んでもらった結果は次のとおりである。

加重平均でみると、「基地の返還促進」が23.6%と最も高く、つづいて「軍人犯罪や事故をなくすこと」15.0%、「新規に基地を提供しない」14.3%、「演習させない」14.3%となっている。特に、「基地の返還促進」は1番目に選択された割合は43.3%と極めて高くなっている。また、「跡利用の促進」は1番、2番目に選好される割合は小さいものの、3番目に選好される割合が22.3%と高く、差し迫って必要とされているわけではないが、二次的なニーズの強さをうかがわせている。

図4-7-1 米軍基地対策

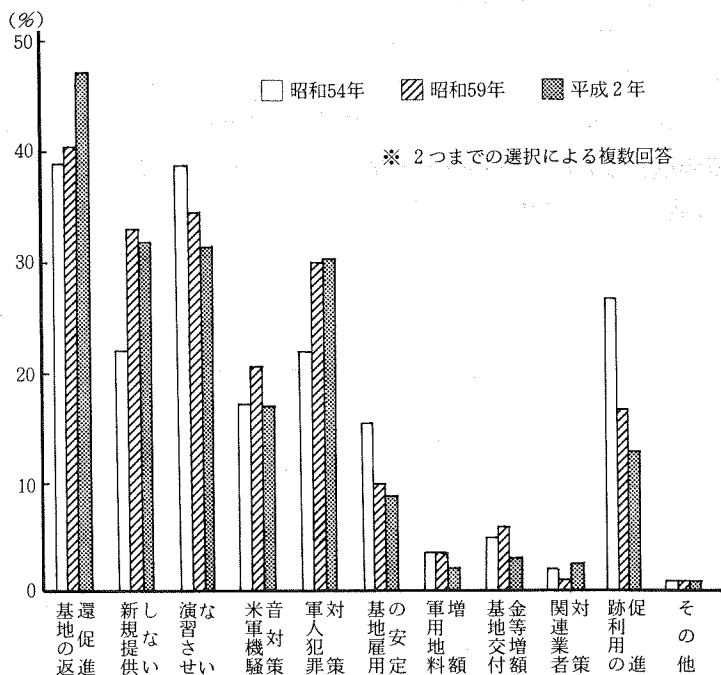


## (2) 米軍基地対策の推移

基地に対するニーズに、時系列で変化があったかどうかをみる。比較にあたっては、次のことを考慮し行うものとする。昭和54年調査が、順位をつけず2項目の選択であったため、昭和59年と今回調査の1番と2番を単純に加えた合計で比較する。また、今回調査に選択項目を増やしたため、今回調査が平均的に若干低い値となる。

ニーズの高まりがみられるのは「基地の返還促進」と「軍人犯罪対策」で、逆に「演習をさせない」や「跡利用の促進」などについてニーズが低くなっている。

図4-7-2 米軍基地対策の推移



## (3) 基地収入の有無別にみた米軍基地対策

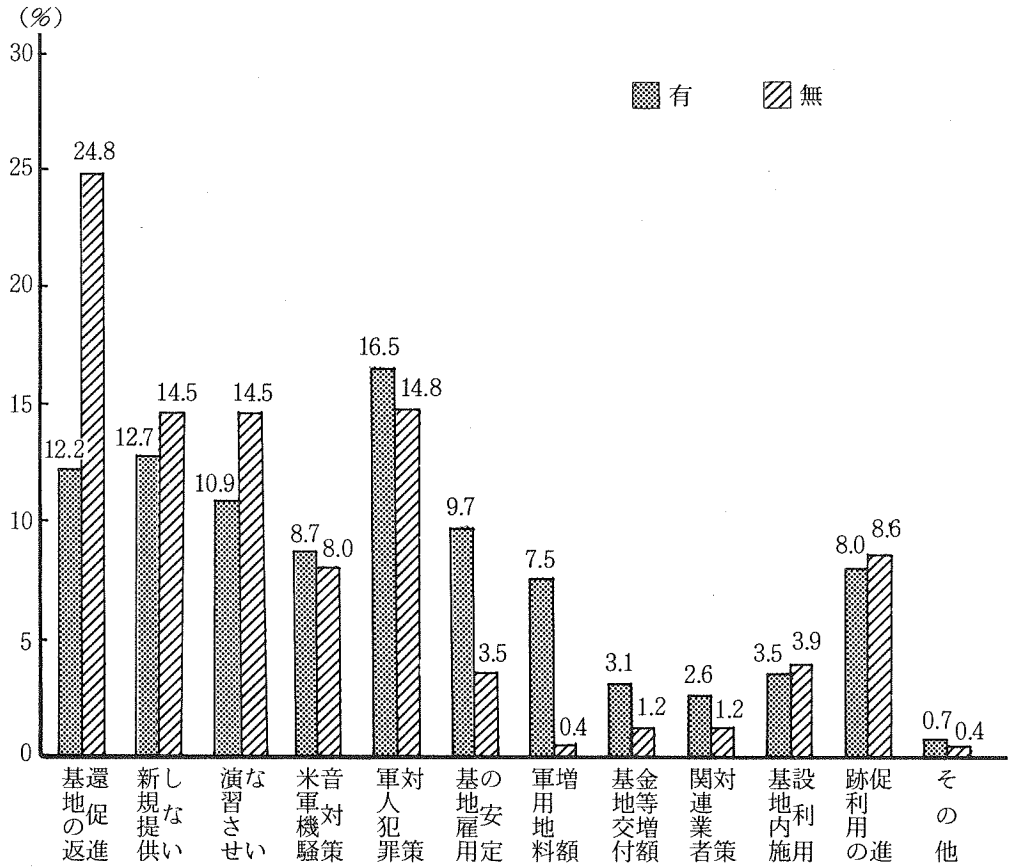
ここでは、軍雇用賃金や軍用地料等の基地関連収入がある場合とそうでない場合に、基地対策に差異があるのかとみる。

基地関連収入のない場合は、「基地の返還促進」24.8%が1位で、「軍人犯罪の対策」14.8%で2位、「基地を新規提供しない」と、「演習させない」が14.5%で3位となっている。基地関連収入のある場合は、「軍人犯罪の対策」が16.5%で1位、「基地を新規提供しない」が12.7%で2位「基地の返還促進」が12.2%で3位となっている。

「基地の返還促進」については、基地関連収入のある場合はない場合の約半分のニーズである。逆に、「基地雇用の安定」、「軍用地料の増額」などについては、収入のある場合のニーズが高くなっている。両者のニーズにはかなりの差があり、収入のある場合はその確保を図る対策を望んでいるようである。



図4-7-3 基地収入の有無別加重平均でみた米軍基地対策



#### (4) 地域別にみた米軍基地対策

「基地返還促進」については、地域間のバラつきが大きく、先島地域が高く、中部で低くなり、その差は10ポイント以上となっている。

「基地を新規提供しない」や「演習をさせない」については、北部で若干高くなっている。「米軍機の騒音対策」については、中部が高く、同時に「基地雇用の安定化」や「軍用地料の増額」についても、他地域より高くなっている。「軍人犯罪対策」については北部や中部が高く、「基地内施設利用」では中部、那覇で若干高くなっている。

図 4-7-4 地域別加重平均でみた米軍基地対策

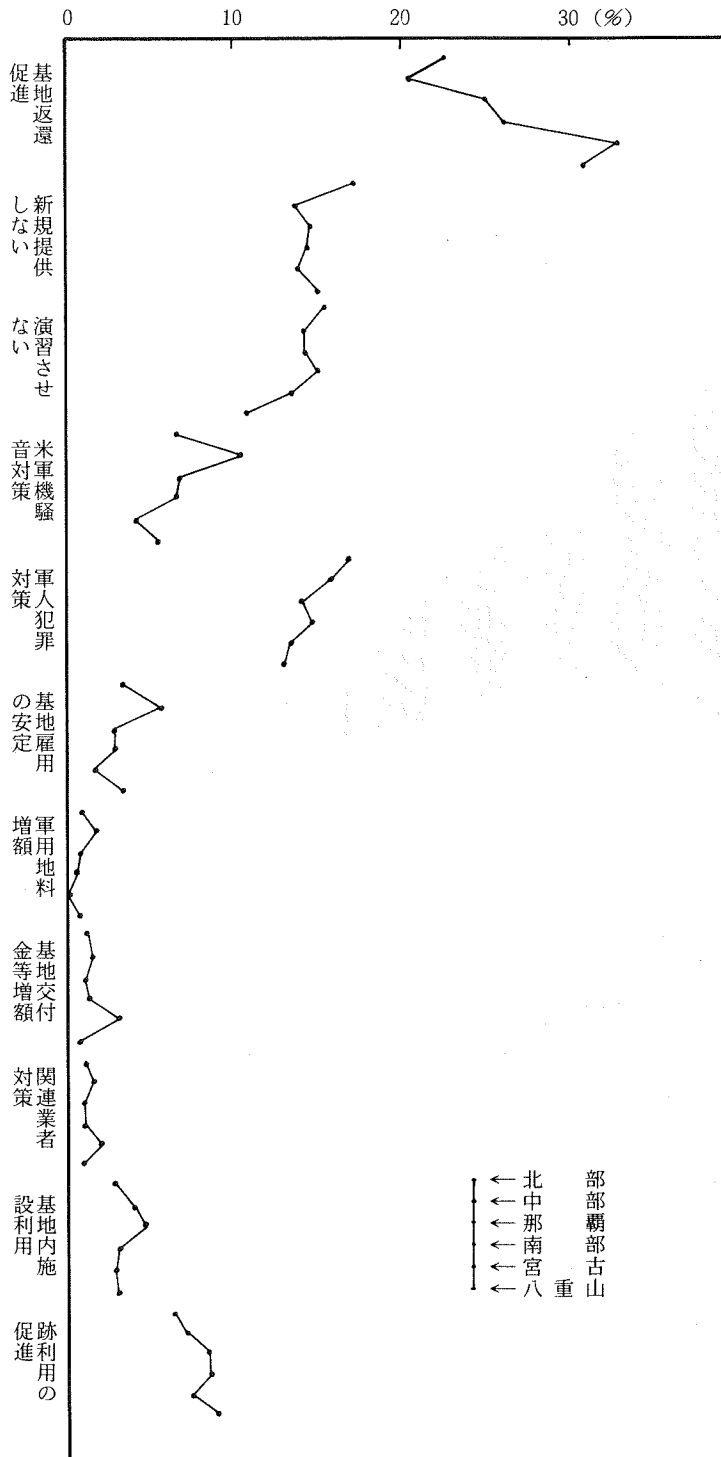


表4-7-1 県計、時系列及び属性別にみた米軍基地への対応の集計表

(単位：%)

問 4	県計 (平2年)				県計 (2つまで)			基地収入の有無別加重平均			
	1番	2番	3番	加重平均	昭54	昭59	平2	昭59	平2	昭59	平2
1 基地の返還促進	43.3	3.9	3.9	23.6	38.8	40.4	47.1	11.2	12.2	21.0	24.8
2 新規提供しない	13.2	18.6	9.3	14.3	21.8	32.8	31.7	12.2	12.7	15.6	14.5
3 演習させない	10.8	20.4	12.5	14.3	38.5	34.2	31.2	12.2	10.9	15.8	14.5
4 米軍機騒音	6.6	10.3	7.7	8.0	17.0	20.4	16.9	11.4	8.7	9.6	8.0
5 軍人犯罪・事故	12.3	17.7	17.4	15.0	21.7	29.8	30.0	15.1	16.5	14.5	14.8
6 基地雇用の安定	3.6	5.0	3.5	4.0	15.1	9.7	8.6	9.6	9.7	4.3	3.5
7 軍用地料増額	0.7	1.4	1.3	1.0	3.4	3.3	2.1	8.7	7.5	0.9	0.4
8 基地交付金等増額	0.7	2.1	1.7	1.3	4.8	5.8	2.8	4.2	3.1	2.7	1.2
9 関連業者対策	0.4	2.1	2.3	1.3	1.9	1.0	2.5	1.0	2.6	0.7	1.2
10 基地内施設利用	2.0	4.8	7.3	3.8	—	—	6.8	—	3.5	—	3.9
11 跡利用の促進	3.1	9.6	22.3	8.4	26.4	16.4	12.6	11.9	8.0	10.6	8.6
12 そ の 他	0.2	0.7	0.8	0.5	0.8	0.7	0.9	0.2	0.7	0.4	0.4
13 わからない	1.3	0.7	6.6	—	7.1	2.5	2.0	1.2	1.0	2.2	2.1
14 無 答	1.8	2.9	3.5	—	2.6	3.1	4.7	1.3	2.8	1.8	2.3

表4-7-1 県計、時系列及び属性別にみた米軍基地への対応の集計表（つづき）

（単位：％）

問 14	地域別加重平均					
	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
1 基地の返還促進	22.4	20.4	25.0	26.0	32.6	30.6
2 新規提供しない	17.0	13.6	14.5	14.2	13.7	14.9
3 演習させない	15.2	14.3	14.2	14.9	13.4	10.7
4 米軍機騒音	6.5	10.4	6.8	6.4	4.0	5.4
5 軍人犯罪・事故	16.8	15.6	14.0	14.6	13.2	13.0
6 基地雇用安定	3.5	5.5	3.0	3.0	1.7	3.3
7 軍用地料増額	0.8	1.6	0.7	0.5	0	0.6
8 基地交付金等増額	1.3	1.4	1.1	1.3	3.1	0.8
9 関連業者対策	1.0	1.5	1.1	1.1	1.7	0.8
10 基地内施設利用	3.0	4.0	4.6	3.0	2.8	2.9
11 跡利用の促進	6.5	7.1	11.1	8.7	7.3	8.9
12 そ の 他	0.5	0.5	0.2	0.7	0.3	0.6
13 わからない	1.9	1.8	1.7	2.3	3.5	4.1
14 無 答	3.6	2.2	1.7	3.3	2.6	3.5

## 8 21世紀の沖縄像

21世紀の沖縄は「人間的なふれあいがあり、精神的に豊かな県」になってほしいという割合が49.3%で最も高く、次いで「景観の美しい県」40.8%となっている。人や景観のあとには「福祉の充実した県」と「物価の安定した県」、さらには「平和な県」といった生活や平和に関する項目がつづいている。

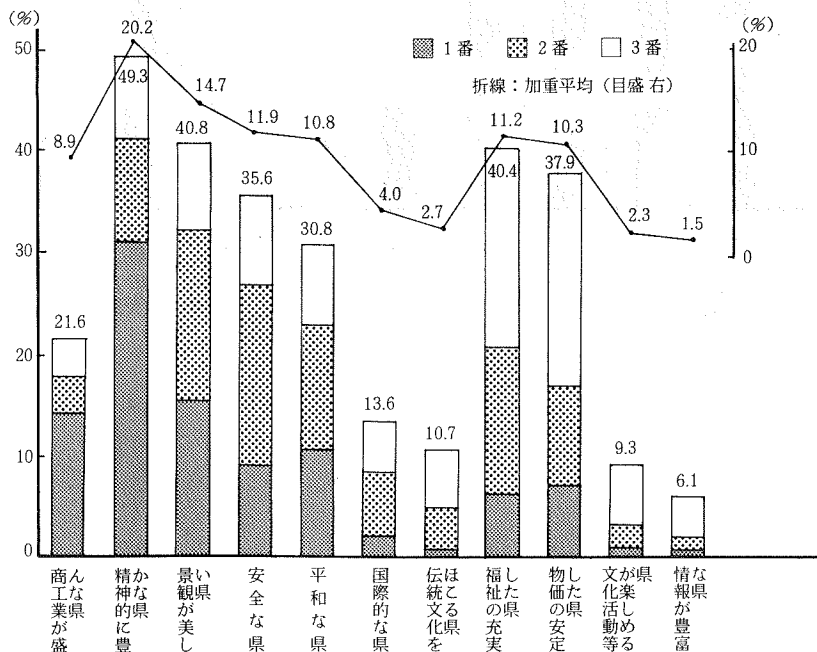
また、年齢層別に見ると、若年層は「景観の美しい県」、高年層は「高齢者が安心してくらせる福祉の充実した県」になってほしいと思っている。

### (1) 県計でみた21世紀の沖縄像

21世紀のはじめ頃の沖縄県はどんな県になってほしいと思いますかという問いに対して、11の選択枝から順番をつけて3項目選んでもらった。その結果を加重平均でみると、「精神的に豊かな県」が20.2%で1位、「景観が美しい県」が14.7%で2位、「安全な県」が11.9%で3位となっている。単純割合で見ると、「精神的に豊かな県」を1番目に選んでいる割合が最も高く、他の項目の2倍以上あって31%となっている。「景観が美しい県」と「安全な県」は2番目に選好される割合が高く、それぞれ16.8%、17.8%である。

3番目に選好される割合が高い項目は「福祉の充実した県」と「物価の安定した県」で、それぞれ19.6%、20.9%となっている。総合的にみると、「肝と自然が美しく、安心してくらせる県」というイメージになるのかもしれない。

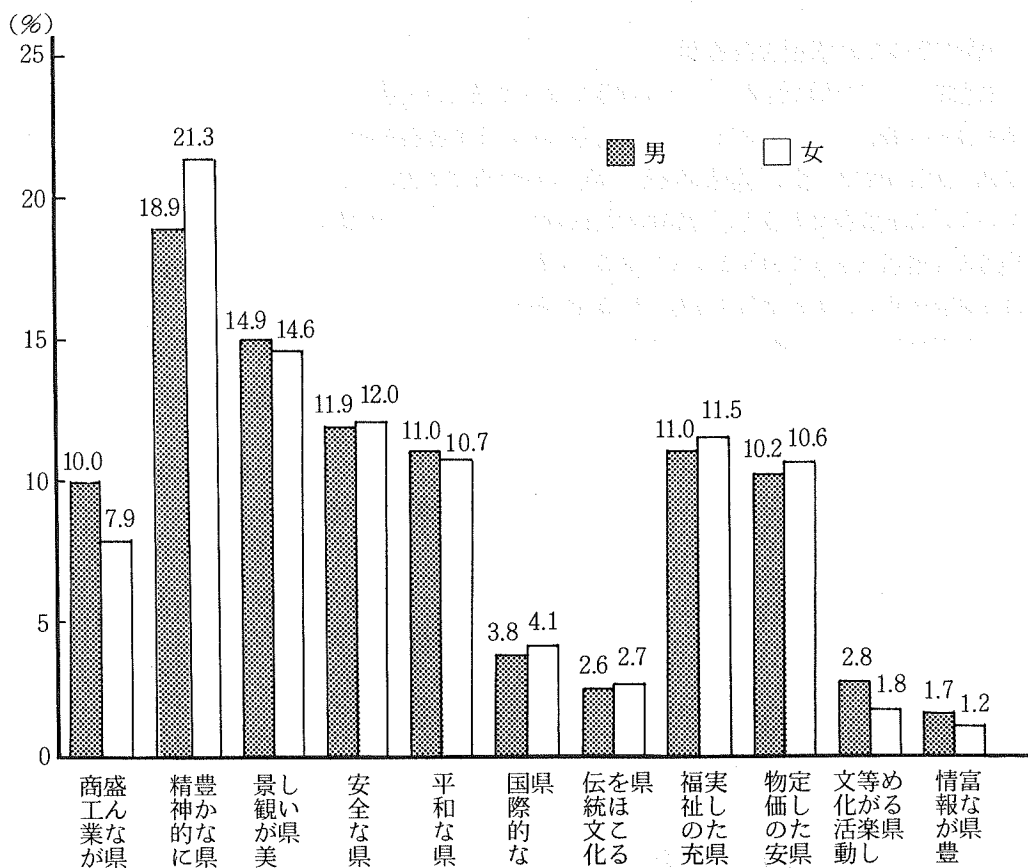
図4-8-1 21世紀の沖縄像（県計）



## (2) 性別でみた21世紀の沖縄像

男女別にみた場合の順位は、ほぼ同じである。男女で選好度合が大きく異なる項目をみると、「商工業の盛んな県」では、男性が10.0%、女性が7.9%と2.1ポイント男性が高くなっている。また、「精神的に豊かな県」については男性が18.9%、女性が21.3%と2.4ポイント女性が高くなっている。そのほか、「休暇がとれ、文化活動、スポーツが楽しめる県」については、男性が2.8%と女性を1ポイント上回っている。

図4-8-2 性別加重平均でみた21世紀の沖縄像



### (3) 年齢別でみた21世紀の沖縄像

若年層で高い項目は「景観が美しい県」、「国際的な県」、「休暇がとれ、文化・スポーツ活動が楽しめる県」、「情報が豊富で近代的な県」となっている。逆に、高齢層ほど高い項目は「福祉の充実した県」となっている。

そのほか、30代では「物価の安定した県」が、40代、50代では「商工業が盛んな県」が、他の年齢層よりも選好されている。

図4-8-3 年齢別加重平均でみた21世紀の沖縄像

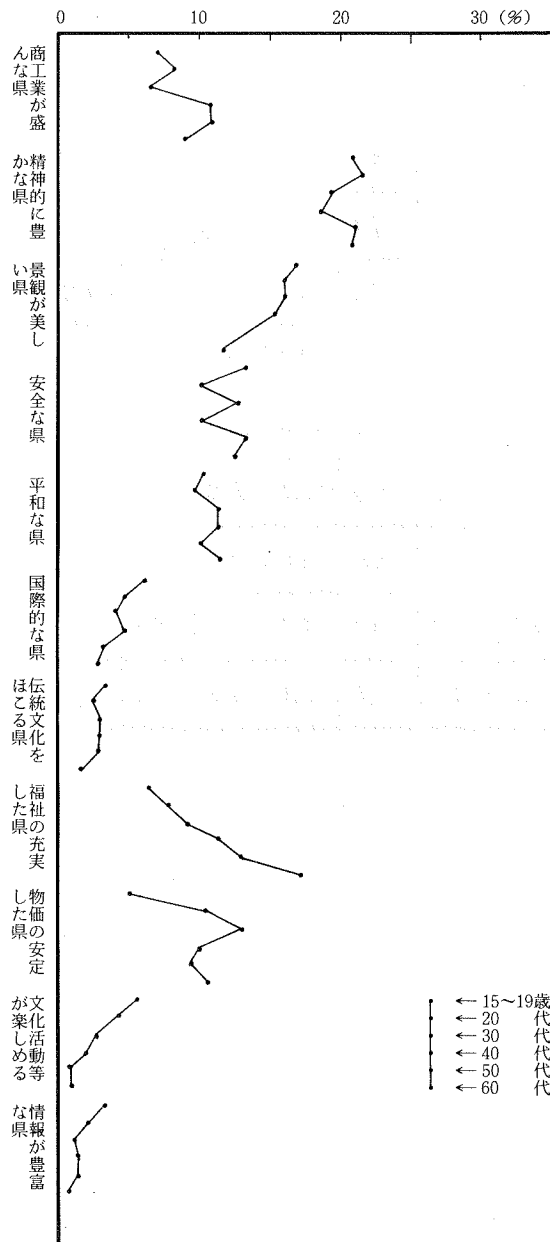


表4-8-1 県計、属性別にみた21世紀の沖縄像の集計表

(単位：%)

問 17	県 計			性別加重平均		年 齢 別 加 重 平 均					
	1番	2番	3番	男	女	15～ 19歳	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69
1 商工業盛んな県	14.3	3.5	3.8	10.0	7.9	7.0	8.3	6.4	10.8	10.7	9.0
2 精神的に豊かな県	31.0	10.1	8.2	18.9	21.3	20.8	21.7	19.4	18.6	21.1	20.7
3 景観が美しい県	15.4	16.8	8.6	14.9	14.6	17.1	16.0	16.0	15.4	13.4	11.7
4 安 全 な 県	9.1	17.8	8.7	11.9	12.0	13.4	9.9	12.7	10.2	13.4	12.4
5 平 和 な 県	10.8	12.2	7.8	11.0	10.7	10.4	9.7	11.4	11.6	9.8	11.6
6 国 際 的 な 県	2.2	6.3	5.1	3.8	4.1	6.2	4.8	4.2	4.6	3.2	2.7
7 伝統文化をほこる県	0.7	4.2	5.8	2.6	2.7	3.4	2.5	3.0	2.9	2.7	1.6
8 福祉の充実した県	6.3	14.5	19.6	11.0	11.5	6.4	7.8	9.1	11.5	13.0	17.2
9 物価の安定した県	7.1	9.9	20.9	10.2	10.6	4.9	10.3	12.9	10.0	9.3	10.6
10 文化活動やスポーツを楽しめる県	1.2	2.1	6.0	2.8	1.8	5.7	4.2	2.8	1.9	1.0	1.0
11 情報豊富な県	0.7	1.3	4.1	1.7	1.2	3.3	2.2	1.1	1.5	1.3	0.8
12 無 答	1.2	1.4	1.5	1.1	1.5	1.5	2.6	1.0	1.1	1.2	0.7